

小金井市環境報告書 平成30年度版



(江戸の知恵「打ち水日和 2018」in 小金井)

小金井市環境部

目 次

第1章 はじめに

1. 環境報告書のねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 環境報告書の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 環境報告書の構成と内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
4. 環境報告書の作成と報告書を活用した点検評価の仕組み・・・・・・・・・・ 6

第2章 環境啓発事業

取組1

- 環境講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

取組2

- 環境フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

取組3

- クリーン野川作戦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

取組4

- 環境施設見学会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

取組5

- 小金井市環境賞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

第3章 基本計画の取組の進捗状況

1. 意識・情報・学習・行動のネットワークをつくる・・・・・・・・・・ 13
2. 緑を守り育てる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
3. 地下水・湧水・河川の水循環を回復する・・・・・・・・・・ 21
4. 自然環境を一体的に保全する・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
5. 公害を未然に防止する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
6. 小金井らしい景観をつくる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
7. ごみを出さない暮らしとまちをつくる・・・・・・・・・・ 31
8. 地域から地球環境を保全する・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

第4章 小金井市の環境の状況

1. 公害苦情の発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
2. 大気汚染の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
3. 小金井市の大気質調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
4. 小金井市内の道路交通騒音・振動調査・・・・・・・・・・ 44
5. 衛生害虫等の発生相談状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
6. 野川の水質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
7. 井戸水調査（平成30年度平均値）・・・・・・・・・・ 46
8. 湧水調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
9. 放射能測定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

第5章 市役所としての取組	
1. 小金井市環境行動指針	52
2. グリーン購入	55
3. 小金井市施設ごみゼロ化行動	56
4. エコドライブ教習会	56
5. 小金井市の環境配慮設備設置費補助制度	56
6. 小金井市役所における地球温暖化対策	58
7. 小金井市環境マネジメントシステム	61
8. 飼い主のいない猫対策	61
第6章 環境基本計画の推進に関すること	
1. 推進体制	63
2. 財源の確保	63
3. 市民等の参加・協働による推進	63
4. 計画の進行管理と評価	63
第7章 点検評価結果	
1. 環境基本計画に基づく環境保全等の取組の点検評価について	64
2. 環境報告書作成について	65
3. 点検評価を受けて	65
資料編	
1. 小金井市環境方針	66
2. 環境行動チェックシート	67
3. 平成30年度グリーン購入実績一覧表	69
4. 小金井市環境保全実施計画	72
用語解説	84

第1章 はじめに

1. 環境報告書のねらい

この環境報告書は、小金井市環境基本条例第22条に基づき、平成30年度の年次報告書として作成するものです。

環境報告書を作成・発行する大きな目的の一つは、行政と市民がお互いの情報を共有し、コミュニケーションや協働を可能にすることです。また、情報を提供することにより、環境保全への関心を喚起し、環境保全活動をより活発にしていくことです。

また、環境報告書は、環境基本計画の進行管理という役割を担っています。計画に示された取組の方向に沿って、どれだけの取組が進められ、計画の目標がどれだけ達成されているかを明らかにすることで、取組の改善を図り、計画をより一層推進しようとするものです。

これらの目的から、本報告書では、環境基本計画の枠組に沿って、次のような情報を掲載します。

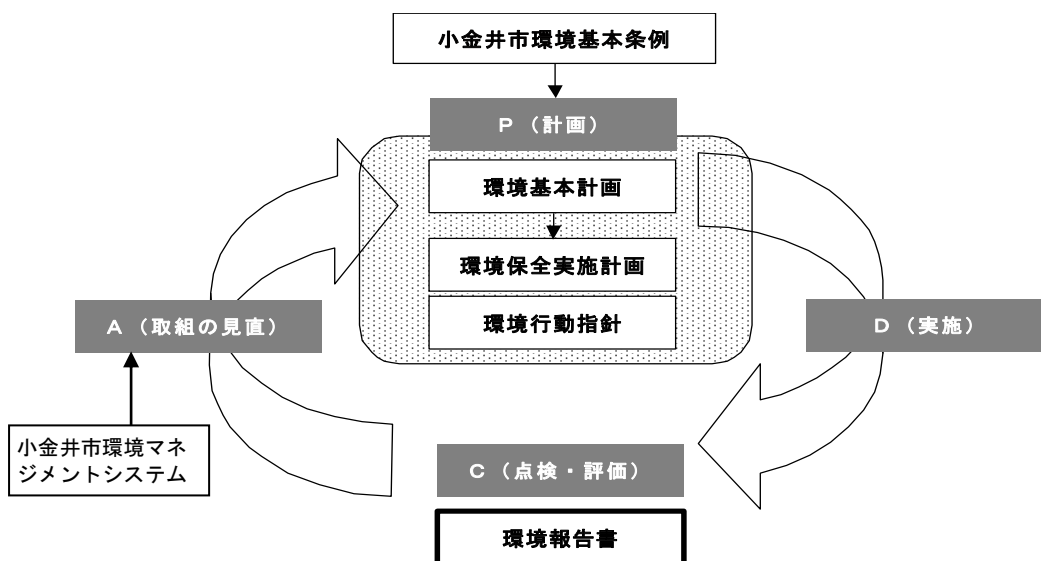
- 環境市民会議の活動状況や、その他の市民等の活動状況
- 環境の状況や課題
- 環境保全等の取組の状況

できあがった環境報告書がコミュニケーションの手段であることはもちろん、環境報告書の作成プロセス自体も、コミュニケーションの重要な一過程です。情報を収集したり、取組の成果や課題を確認するために様々な主体が集まったりすることが、貴重なコミュニケーションの場と機会づくりになります。

2. 環境報告書の位置づけ

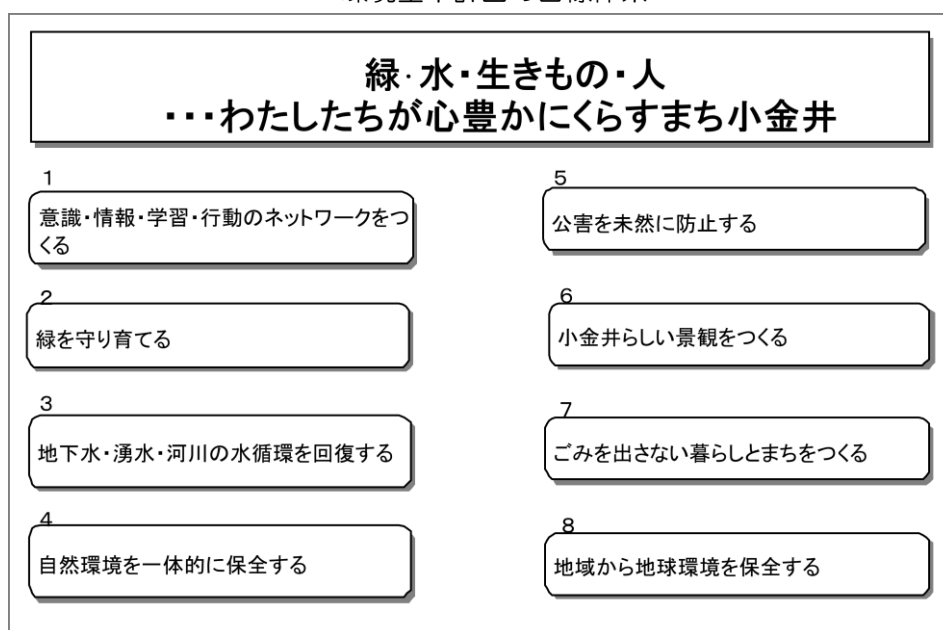
小金井市環境基本条例では、「環境基本計画」を策定すること、環境保全等の取組の実施状況を点検評価すること、「環境報告書」を毎年度作成・公表することなどを定めています。この環境報告書の位置づけは次のとおりです。

小金井市の環境保全等における環境報告書の位置づけ



また、環境基本計画に示された環境像（将来像）及び基本目標（分野別目標）は次のとおりで、この目標体系に沿って、取組の体系と方向が示されています。

環境基本計画の目標体系



小金井市環境基本条例より

(環境基本計画)

第9条 市長は、環境の保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、市民参加により小金井市環境基本計画（以下「環境基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 環境基本計画は、環境の保全等について、次に掲げる事項を定めるものとする。

- (1) 目標
- (2) 施策の方向
- (3) 環境基本計画の推進に必要な事項
- (4) 前3号に掲げるもののほか、環境の保全等に関する必要な事項

3 市長は、環境基本計画を定めたとき、又は変更したときは、速やかにこれを公表しなければならない。

(環境保全実施計画)

第11条 市長は、環境基本計画を推進するため、小金井市環境保全実施計画を策定するものとする。

(環境行動指針)

第12条 市長は、環境基本計画に沿って、市、市民及び事業者が、環境の保全等に資する行動をとるための環境行動指針を策定するものとする。

(点検評価の実施)

第21条 市は、本条例の理念に基づく環境の保全等の取組の実施状況を点検及び評価し、今後の取組に反映するよう努めなければならない。

2 事業者は、自らの事業活動に伴う環境への負荷の実態を把握し、その低減の取組を点検するよう努めるものとする。

(環境報告書)

第22条 市長は、環境の状況及び環境基本計画等に基づき実施された施策の状況を明らかにするため、毎年度環境報告書を作成し、これを公表するものとする。

3. 環境報告書の構成と内容

1、2に示した考え方に基づき、環境報告書は、次のような構成・内容としています。

第1章 はじめに

この環境報告書のねらい、位置づけなどを示し、小金井市における環境の保全・回復・創造の取組の中で、本報告書がどのような役割を担っているのかを説明しています。また環境報告書をどのように作成するかについても説明しています。

第2章 環境啓発事業

環境啓発事業は、市民及び市内事業者等を対象に、環境保全を啓発していくとともに、環境保全の目標を達成するために、持続可能な社会を構築して良好な地域環境を確保し、将来世代へ継承するための機運を醸成することを目的として行っています。

市役所が行っている環境啓発事業について報告します。

第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画第4章には、小金井市の環境の保全・回復・創造のために進めるべき取組の方向が体系的・網羅的に示されています。この体系に沿って、環境の状況や取組の状況を報告します。

上記の取組は、市が進める施策事業の計画を示す環境保全実施計画で示しています。

第4章 小金井市の環境の状況

市の環境に関するデータを報告します。

第5章 市役所としての取組

市役所は、自ら事業者として事務事業活動（オフィス活動や公共事業など）を行っています。市役所は率先して環境保全活動を進め、地域における事業者や市民の行動を促す責任があることから、市役所の活動に伴って発生する環境負荷の状況や、市役所が行っている環境負荷の軽減努力について報告します。

第6章 環境基本計画の推進に関すること

環境基本計画では、計画を確実に実施していくために、第5章「計画の推進」で、様々な方法や手段を示しています。環境保全・回復・創造のための直接的な事業ではありませんが、これらの方法や手段が確実に実施され、効果的に運用されていくことは、地域の環境保全等を進めていくうえで大変重要です。そのため、環境基本計画に示されている計画の推進体制等について報告します。

第7章 点検評価結果

環境基本計画に基づく環境保全等の平成30年度取組実績に対する環境審議会からの点検評価結果等を掲載します。

資料編

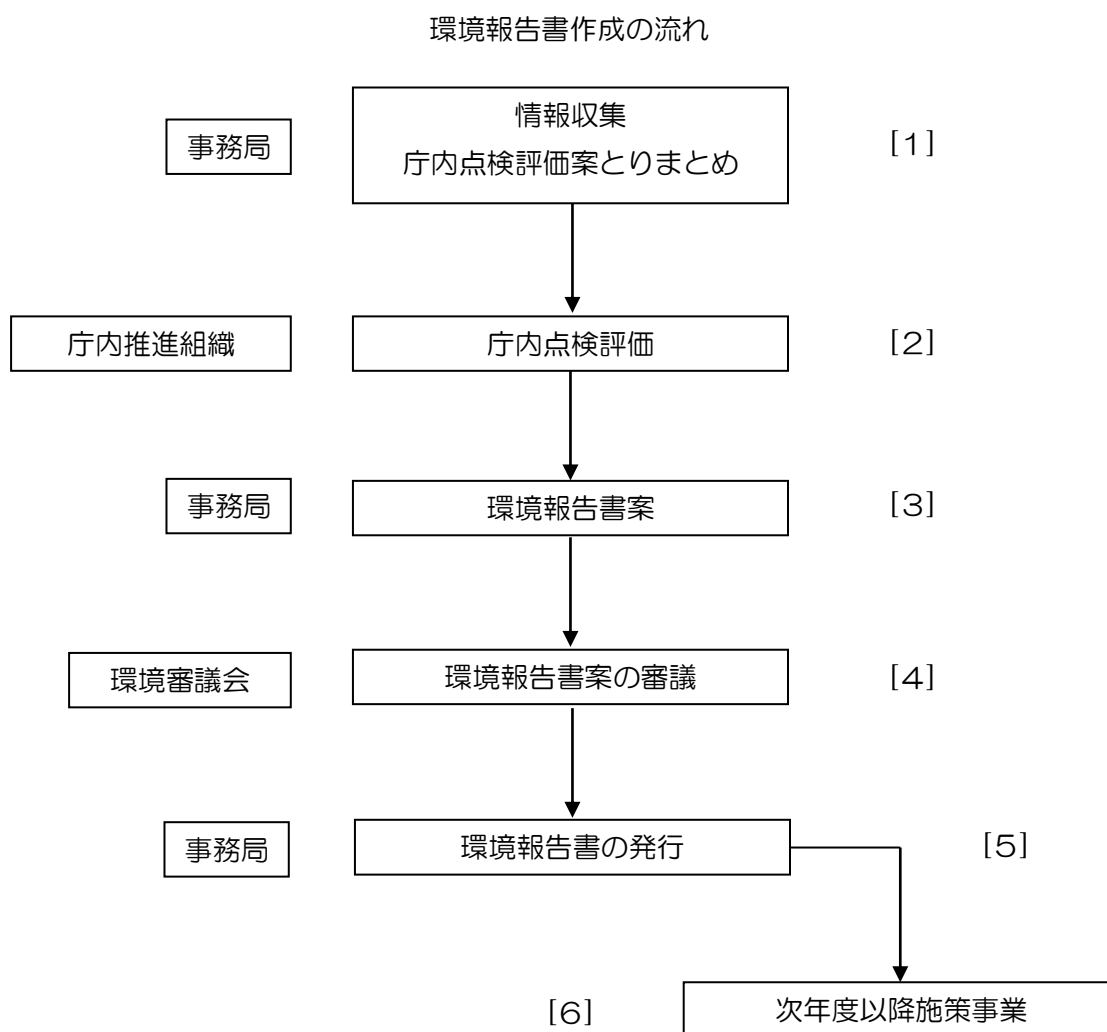
環境報告書本編に係る参考資料等を掲載します。

用語解説

環境報告書に記載されている用語の解説です。

4. 環境報告書の作成と報告書を活用した点検評価の仕組み

環境報告書の作成手順と、報告書を活用した環境基本計画の点検評価の仕組みは次のとおりです。



[1] 市（事務局：環境政策課）で、必要な情報を収集し、とりまとめます。

- 環境現況及び取組に関するデータ
- 市の各部局の施策事業の実施状況
- 重点的取組の進捗状況
- 市以外の市民団体、教育機関、事業者等の活動状況

- [2] [1]の報告を受けて、環境基本計画推進本部（庁内推進組織）で、環境基本計画に基づく取組の進捗を点検評価します。
- [3] 収集した情報と市の点検評価結果から、環境報告書案をまとめます。
- [4] 環境報告書案を環境審議会に提示し、環境審議会は、環境の状況や取組の実施状況を評価します。
- [5] 環境審議会の評価を反映させた環境報告書を発行します。
- [6] 環境審議会の評価結果を、市の各部局に伝え、各部局では次年度以降の施策事業に反映させます。

第2章 環境啓発事業

取組1

○ 環境講座

環境講座 スマホで植物はかせ！顕微鏡はかせ！

とき：平成30年8月23日（木）

会場：小金井市環境楽習館

主催：小金井市

企画：NPO法人こがねい環境ネットワーク

講師：中西 史さん（東京学芸大学・教員）

小野 寛将さん（東京学芸大学・学生）

小学3年生以上のお子さんと保護者を対象に、スマートフォンやタブレット、顕微鏡を使った身近な植物の調べ方を学ぶことで、身近な植物や生きもの興味関心を持ってもらうことを目的として開催されました。

よく見かけるけど名前のわからない身近な植物の形や手触り、においを確かめてオリジナルの名前をつけてみました。そしてスマートフォンやタブレットを使って、花や葉の形を元に調べてみました。

顕微鏡ではメダカの卵を覗いてみました。卵の中で小さなメダカが動いていて、心臓や赤い脾臓も見ることができました。

身近な植物に対する関心が高まり、小さな命の輝きに触れ感動が得られた講座でした。（参加者11名）

環境講座 お米博士になろう

とき：平成31年3月24日（日）

会場：小金井市環境楽習館

主催：小金井市

企画：NPO法人こがねい環境ネットワーク

講師：岡野 久雄さん（岡野米店）

小学生を対象とし、お米の種類や育て方、精米の工程や品種による味の違いなどを学ぶことで、当たり前にお米について興味関心を持ってもらうことを目的として開催されました。

お米の種類や育て方などを説明していただいた後に、もみすり体験や精米、コシヒカリ・あきたこまち・ミルキーQueenの三種類のお米の食べ比べをしました。食べ比べではそれぞれおいしいと感じるお米が違って驚いていました。

お米でポン菓子を作るところを見せていただきました。大きな音がするため、子どもたちは逃げる準備をするなど楽しそうな様子でした。(参加者13名)

取組2

○ 環境フォーラム

こがねい環境フォーラム2018「めぐる・ひろがる・未来につなげる」

とき：平成30年12月1日(土)～2日(日)

会場：小金井市環境楽習館・公民館緑分館・宮地楽器ホール・東京学芸大学環境教育研究センター

主催：小金井市

協力：小金井市環境市民会議・公益財団法人トトロのふるさと基金・NPO 法人緑のダム北相模・東京学芸大学附属小金井中学校・東京学芸大学環境教育研究センター・Musashino はげの森カフェ・てのひらストア otete

平成30年12月1日(土)・2日(日)に、こがねい環境フォーラム2018「めぐる・ひろがる・未来につなげる」を開催しました。2日間にわたり、様々なプログラムが実施されました。

◆どんぐりトトロづくり

公益財団法人トトロのふるさと基金にご協力いただき、どんぐりを始めとする森のめぐみを利用したオリジナルのどんぐりトトロを創作しました。

◆藍で染める手ぬぐい

講師：麻生 芬さん(染織工芸家)

本藍染料の事前準備から、貴重な道具や作品の展示を行いました。子どもから大人まで幅広い年齢層の方に染物体験をしていただきました。

◆稲わらで作る江戸のしめ飾り

講師：瀧本 広子さん(わら工芸家)

古くから江戸、神奈川地方で伝わる「玉締め」と呼ばれるしめ飾りを製作しました。子どもから大人まで幅広く伝統文化に触れる機会となりました。

◆30000個の積み木と遊ぼう

NPO 法人緑のダム北相模及び同法人副代表理事の宮村連理さんに協力いただき、東京学芸大学附属小金井中学校の生徒たちによるボランティア、同大学の大学生、大学院生スタッフによる会場運営で2日間にわたって積み木遊びコーナーを開催しました。参加者が途切れることがほとんどなく大盛況でした。

◆環境パフォーマンス

腹話術師のいずみさんをお迎えし、楽しいパフォーマンスを通して、環境問題について伝えていただきました。

◆展示コーナー

小金井市環境市民会議及び市内の環境系市民団体や中高生による森林保全活動の展示のほか、海のごみの実物展示などを2日間にわたって行いました。

◆講座「異常気象と地球温暖化」

講師：江守 正多さん（国立環境研究所・地球環境研究センター副センター長）

小金井市環境市民会議エネルギー部会の企画として開催されました。小さい子どもの参加者もいたため、話題を柔軟にわかりやすく変えて講演していただきました。

◆講座「マイクロプラスチックってなに？～海へつながる私たちの暮らし」

講師：小島 あずささん・吉野 美子さん（一般社団法人 JEAN）

小金井市環境市民会議の企画として開催されました。前半は暮らしに深く浸透したプラスチックが細かいごみとなって川から海へと漂うことで生じる危険性についてお話いただき、後半は2グループに分かれてワークショップを行いました。

◆スタンプラリー

各会場にスタンプとカードを配布し、複数の企画をめぐる参加者に副賞を用意しました。

2日間で延べ440人の来館者があり、盛況のフォーラムとなりました。

取組3

○ クリーン野川作戦

第54回クリーン野川作戦

とき：平成30年5月26日（土）

会場：野川小金井新橋くじら山下原っぱ（本部）・野川くらおね橋

清掃区間：野川公園桜橋（三鷹市境）～野川くらおね橋（国分寺市境）

参加者数：220人

収集ごみ：可燃ごみ47kg、不燃ごみ51kg

主催：小金井市

後援：東京都北多摩南部建設事務所

協力：小金井市環境市民会議

東京学芸大学環境教育研究センター

野川自然の会

Musasino はけの森カフェ

東京川ガール

東京経済大学

◆事業目的

小金井市内を流れる野川の清掃を通じて、参加者同士の交流と野川流域の環境保全を考
えることを目的として開催されました。

◆当日の内容

スタッフは、午前8時30分に本部及び各コーナーに集合して、会場設営を行いました。

10時から市長の挨拶及び事務局からの清掃注意事項の説明のあと、清掃を開始しまし
た。上流部の参加者は佐賀県人会松濤学舎の皆さんを含め、直接くらおね橋に集合しまし
た。

【水生生物観察会】

にしの橋下の河岸で、東京学芸大学大学院修了生の高榮晋平さんを講師に迎え、親子
を対象とした「水生生物観察会」を実施しました。野川で見られる様々な魚や生物を観
察することで、身近な川の環境を守ることの大切さを実感してもらえました。

【植物観察会】

本部周辺からやまべ橋河岸周辺で、葛原里山暮らし研究所の池竹則夫さんによる「植
物観察会」を実施しました。親子参加が多く、植物の見分け方や特徴についての解説を
行い、様々な植物に関する疑問に答えながらの観察会となりました。

【外来植物観察会】

本部周辺の中流部から下流部で、野川自然の会の上田夕希子さんによる「外来植物の
駆除」を行いました。東京学芸大学蹴球部の皆さんが部活動の一環として参加いただき、
他の植物を圧倒するヤセウツボやワルナスビを中心に熱心に回収いただきました。

【環境啓発展示（マイクロプラスチック）】

本部前では東京学芸大学環境教育研究センターと協力し、大学生による展示「マイク
ロプラスチックってなあに？」を行いました。展示によって、マイクロプラスチックに
よる海洋汚染と身近な川とのつながりを考えるきっかけになりました。

清掃や観察会を終えた参加者には、防災非常食のビスケットの配布、スターバックスコ
ーヒー近隣店舗の協力によるコーヒーの提供、ノベルティグッズの配布を行いました。

取組4

○ 環境施設見学会

環境施設見学会「エコプロ2018」

とき：平成30年12月7日（金）

場所：東京ビッグサイト

主催：小金井市

企画：NPO法人こがねい環境ネットワーク

「サステナブルな社会の実現に向けて」というテーマを掲げ開催された日本最大級の環境イベントの見学を通じて、環境学習や情報収集を行い、小金井の環境について考える機会を提供することを目的として企画しました。

最初に団体見学として、小金井市市内からの出展団体である東京学芸大学環境教育研究センターを見学し、その後、自由見学としました。

自由見学の時間を多く取ったため、各自の関心に合わせて効率よく情報収集することができました。(参加者21名)

取組5

○ 小金井市環境賞

小金井市環境賞

市では、小金井市環境基本条例が制定された、平成15年度を環境元年と位置づけ、環境活動に功績のあった市民、市内の団体または事業者の表彰を行っています。

平成30年度は推薦がなかったため、表彰を実施しないことになりました。

小金井市環境賞受賞団体(者)一覧(過去10年間)

	年 度	受 賞 者(団体・個人)
第7回	平成21年度	はけの森調査隊
第8回	平成22年度	法政大学環境系総合サークル「H・E・L・P！」
第9回	平成23年度	小金井を美しくする会
第10回	平成24年度	鏑山 英次さん
第11回	平成25年度	中田 啓子さん
第12回	平成26年度	小金井市環境市民会議
第13回	平成27年度	小金井自然観察会
第14回	平成28年度	該当者なし
第15回	平成29年度	山田 啓一さん
第16回	平成30年度	該当者なし

第3章 基本計画の取組の進捗状況

以下の8項目からなる環境基本計画の基本施策に基づき、各課が進める事業を環境保全実施計画としてまとめ、実施・点検・評価を行っています。

本章では、年度終了後に各課より受ける事業の取り組み状況を、実績・自己評価（S：計画を超えて達成、A：計画どおりに達成、B：実施したが計画に未達、C：未実施）の順に掲載しています。なお、各課の環境保全実施計画には、まだ計画の段階にあるものを含みます。

1. 意識・情報・学習・行動のネットワークをつくる

環境学習や環境保全活動については、市民団体、大学・学校などの教育機関をはじめとして、様々な団体や機関が取り組んでいます。こうした様々な主体の連携を図り、環境学習をさらに深化させ、環境に対する意識の向上や情報の広報・共有化を推進します。また、市民・市民団体・教育機関・事業者及び小金井市が協力・協働して、小金井らしい創造的な環境保全行動を実践できる、仕組みづくりと機能を強化していきます。

こうした取組によって、「環境基本計画」の認知度を高め、市全体が目標達成に向けた行動を進められるよう、様々な機会を通じて環境学習を取り入れ、環境行動を促進していきます。

【平成30年度の実績と今後の取組】

環境をテーマにしたイベントや講座の開催などにより、環境学習の推進や環境に対する意識向上に向けた取組を継続的にを行い、多くの市民の方に参加していただきました。

今後も引き続き、環境学習の推進、環境に対する意識の向上、情報の共有に向けた取組を行い、様々な主体との連携が図られた環境保全活動の更なる促進を目指します。

1-1 環境学習の推進

・小金井市全体で環境学習を推進していくため、環境学習に携わっている教育関係者、研究機関、活動する団体や個人、行政、大学等の教育機関、公民館、環境楽習館などのネットワーク化と連携を強化し、市民・事業者の自主的活動・取組を支援する体制の充実を図ります。

・各々の主体が協働して、小金井市らしい環境学習プログラムをつくり、提供していきます。

・誰もが環境学習に取り組めるように、講師リストなどのデータベース化を促進し、利用しやすい情報発信・広報等を工夫していきます。

第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
1-1-1 学習の場、人材、情報のネットワーク化と連携を強化する	小金井市全体で環境学習を推進するため、環境学習に携わっている教育関係者、研究機関、活動する団体や個人、行政、大学等の教育機関、公民館、環境学習館などのネットワーク化と連携を強化する。	環境フォーラムを継続して開催し、様々な主体から参加者を募る。	環境政策課	継続	環境フォーラムの開催（2日間・参加者440人）、環境市民会議への出席（定例会2回、総会1回等出席）等を通じて、連携とネットワーク化を進めた。	A
	市民・事業者の自主的活動・取組を支援する。	出前教室を開催するとともに、講師を派遣する。また、社会教育関係団体登録を充実させ、活用を促進する。	生涯学習課	継続	出前講座実施回数全30回。	A
1-1-2 環境学習の構想・計画を深化させ、推進する	各々の主体が協働して、小金井市らしい環境学習プログラムをつくり、提供していく。	環境学習に取り組む様々な主体の連携を図る。	環境政策課	継続	環境市民会議への出席（定例会2回、総会1回等出席）等を通じて、様々な主体の連携を図った。	A
	誰もが環境学習に取り組めるように、講師リストなどのデータベース化を促進して環境学習を行う人材を把握し、登録と提供の仕組みをつくり、利用しやすい情報発信・広報等を工夫する。	人材登録制度、講師リスト等を整備して人材、団体の把握に努め、市民、学校等の環境学習活動への派遣要請に対して紹介する。	環境政策課 生涯学習課 指導室	継続	環境市民会議への出席（定例会2回、総会1回等出席）、環境学習館での環境講座の開催（2回）等を通じて、人材、団体の把握に努めた。 （環境政策課） 講師リストは備えているが、中々活用につつまなかった。 （生涯学習課） 人材登録制度、講師リスト等を整備して人材、団体の把握に努め、市民、学校等の環境学習活動への派遣要請に対して紹介した。 （指導室）	B
	環境学習関連資料の整備・提供をする。	環境関連の資料を収集し、テーマ展示等で一般利用者に紹介するとともに団体貸出等にも活用する。	図書館 指導室	継続	選書基準に基づき、環境政策に関する資料を収集し、提供した。 （図書館） 学習内容に応じて、環境関連の資料を収集し、テーマ展示等を実施した。 （指導室）	A
	体験学習や観察会・講座・講習会を開催する。	成人大学、成人学校、子ども体験講座の開催や、講演会等の開催を後援する。	公民館 環境政策課	継続	○本館：成人学校「菜園教室」延参加者1,014人 ○真井南分館：市民講座「はげ（国分寺産線）を学ぶ」延参加者59人、成人学校「親子で作る！ネイチャークラフト」参加者9人、「植物観察 御岳渓谷」参加者22人、「江戸野菜に親しもう」延参加者900人 ○緑分館：子ども体験講座「野川のいきもの観察」参加者20人、成人学校「庭木剪定入門」延参加者116人、「共働農園 野菜作りコース」延参加者1,133人、「共働農園 親子コース・とうもろこしコース」延参加者104人、成人大学講座「今の農業はこうなっている」参加者83人 ○真井北分館：成人学校「きたまちセンターの花づくり」延参加者161人 （公民館） 環境フォーラム（1回）、環境施設見学会（1回）、環境講座（2回）、クリーン野川作戦（1回）を開催したほか、講演会や観察会等を後援（8件）した。 （環境政策課）	A
	環境基本計画の周知・普及に努める。	ホームページによる周知のほか、環境フォーラム等で概要版を配布する。	環境政策課	継続	第二次小金井市環境基本計画の本編及び概要版をホームページで公開しているほか、環境フォーラム等の機会を利用して概要版を配布し、周知に努めた。	A
環境学習に食育の視点を取り入れて推進する。	野菜・団らん・ふれあい・環境をキーワードに「小金井らしい食生活」のあるひとつづくり・まちづくりを、「Koganei-Style」として地域に展開していく。	健康課	継続	Koganei-Styleの地域展開を目指し、市民ボランティアで運営している小金井市食育ホームページにおいて、広く市民に普及啓発をした。 編集委員会 年11回実施	A	

1-2 パートナリシップ・ネットワークづくり

- ・市民、事業者、市など様々な主体の環境活動をつなぎ、小金井らしい創造的な環境保全活動を活性化し大きくしていきます。
- ・環境市民会議等を通じた団体間のコミュニケーションの促進を図るとともに、様々な主体がパートナーシップに基づき、連携を強化し、協働して活動を展開していきます。
- ・ネットワークづくりのためのコーディネート機能を強化し、市が自らコーディネート機能を担います。
- ・活動を推進するため、リーダー・コーディネーター・ファシリテーターなどの人材育成を支援し推進します。
- ・町会・自治会などの地域コミュニティの中で、人と人との絆を深めることによって環境保全活動の推進を図ります。
- ・地域コミュニティ独自で、または市民活動団体との連携を深化させることによって、新たな取組を創出していきます。
- ・小金井市の環境や暮らしが、広域的なつながりの上に成り立っていることを踏まえ、広域的な連携を強化し、環境保全に取り組んでいきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
1-2-1 環境保全活動のネットワークとコーディネート推進	市民、事業者、市などさまざまな主体の環境活動をつなぎ、小金井らしい創造的な環境保全活動を活性化していく。	環境フォーラムの開催等を通じてさまざまな団体の交流の輪を広げ、情報共有・意見交換を行う。	環境政策課	継続	環境フォーラムの開催（2日間・参加者440人）等を通じて市内環境団体や大学との交流の輪を広げた。	A
	環境市民会議等を通じた団体間のコミュニケーションの促進を図るとともに、様々な主体がパートナーシップに基づき、連携を強化し、協働して活動を展開する。	環境講座、環境学習会、環境フォーラム、施設見学会等を様々な主体の協働で開催する。	環境政策課	継続	環境フォーラム（1回）、環境施設見学会（1回）、環境講座（2回）、クリーン野川作戦（1回）を開催した。	A
1-2-2 市・市民・事業者の協働を推進する	ネットワークづくりのためのコーディネート機能を強化する。	市内の大学や環境団体との連携とネットワーク化の強化に協力する。	企画政策課 コミュニティ文化課 環境政策課 生涯学習課	継続	既に協定を締結済みの6大学等（学芸大、農工大、法政大、亜細亜大、武蔵野大、総合学院テクノスカレッジ）と継続して連携している。 （企画政策課） こがねい市民活動団体リストの更新（コミュニティ文化課） 環境市民会議への出席（定例会2回、総会1回等出席）等を通じて、様々な主体の連携を図った。 （環境政策課） 小金井市、小平市、国分寺市と学芸大学子ども未来研究所で連携して、3市連携講座を実施している。小金井市では全7回実施し、233人が参加した。 12月から原則2日、総合学院テクノスカレッジ体育館の市民開放を開始。延べ126人の利用があった。 （生涯学習課）	S
1-2-3 地域コミュニティを活性化	地域コミュニティの中で、人と人との絆を深めることによって環境保全活動の推進を図り、また、地域コミュニティ独自で、または市民活動団体との連携を深化させることによって新たな取組を創出する。	地域コミュニティを基盤とした環境活動の支援、地域コミュニティと市民活動団体との連携に協力する。	環境政策課	継続	環境市民会議の活性化を目標に、ワークショップ等の取組を実施した。	A

第3章 基本計画の取組の進捗状況

1-2-4 広域的な連携を推進する	広域的な連携を強化し、環境保全に取り組んでいく。	環境に関連した各種協議会に参加するとともに、周辺地域（近隣自治体等）へ環境フォーラム等の開催案内を発信する。 また、野川流域の自治体や環境団体などとの交流に協力する。	環境政策課	継続	東京都環境・公害事務連絡協議会（年6回開催。東京都環境局担当課長職者、多摩26市環境政策担当部署課長職者、係長職者出席）等への参加を通じて他市と連携し、積極的な情報交換を行った。 また、野川流域連絡会などを通じて、野川流域の自治体や環境団体とも連携した。	A
-------------------	--------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	-------	----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---

1-3 情報の積極的な活用

- ・環境情報を継続的に収集し、データベース化を進め、あらゆる主体が活用しやすい形で公開・提供する仕組みづくりを推進していきます。
- ・「環境基本計画」の認知度を高め、市全体が目標達成に向けた行動を進められるよう、様々な広報手段によって、あらゆる主体に情報提供を行っていきます。
- ・「環境基本計画」の認知度・理解度を向上させるため、誰もが利用しやすい効果的な情報発信・広報など様々な手段について、時期・場所・方法等を工夫していきます。
- ・市民のライフスタイルの多様化にあわせた効果的な情報発信の方法について検討していきます。
- ・多くの市民・事業者が小金井市の環境に興味を湧くような情報の提供によって、環境活動が始まる手助けを強化していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
1-3-1 環境情報を収集・整備し、提供する	環境情報を継続的に収集し、データベース化を進め、あらゆる主体が活用しやすい形で公開・提供する仕組みづくりを推進する。	ホームページに掲載する情報については、クイックインテックス等を利用し、利用者から見やすい環境整備を進める。	環境政策課	継続	環境フォーラム、環境施設見学会、環境講座、クリーン野川作戦、田んぼの時間、大気汚染情報、放射能関連情報等をホームページ等で情報発信した。	A
	環境基本計画の認知度を高め、市全体が目標達成に向けた行動を進められるよう、様々な広報手段によって、あらゆる主体に情報提供を行っていく。	ホームページ・公民館・図書館などの市施設に加え、JR駅などにも広報紙を設置し、より広く市政情報の提供に努める。	環境政策課 広報秘書課	継続	環境フォーラム等の機会を利用して概要版を配布し、周知に努めた。 （環境政策課） 広報紙は例年通り、月2回計24回発行し、いずれの号も市施設およびJR両駅に設置した。 また、ホームページについては、従来のPDF版だけでなく、視覚障がい者向けに、市報が音訳された「声の広報」も掲載している。 （広報秘書課）	A
1-3-2 効果的な情報発信を工夫する	環境基本計画の認知度・理解度を向上させるため、効果的な情報発信・広報など様々な手段について工夫する。	環境フォーラム・環境講座等を通して環境基本計画に関する情報発信を行うとともに、概要版の配布等によって認知度・理解度を高める。	環境政策課	継続	環境フォーラム等の機会を利用して概要版を配布し、周知に努めた。	A
	市民のライフスタイルの多様化に合わせた効果的な情報発信を検討する。	ホームページ等で情報発信する。	環境政策課	継続	環境保全に関する様々な情報、市主催の環境啓発イベントの告知等を、ホームページ、市報、チラシの広報掲示板への掲示及び公共施設への設置等で情報発信した。	A
1-3-3 情報を行動に結びつけるコーディネートを推進する	市内の自然環境や生きものに関する情報を提供する。	湧水調査をし、結果を環境報告書等に記載する。	環境政策課	継続	4か所、年2回6月、12月に実施した。	A
	環境行動指針を普及、啓発する。	ホームページでの周知及び環境関連のイベント時に概要版を配布する。	環境政策課	継続	環境フォーラム等のイベント時に希望する市民へ配布した。	A

1-3-3 情報を行動に結びつけるコーディネート推進	市民・事業者が小金井市の環境に興味が湧くような情報の提供によって、環境活動が始まる手助けを強化する。	団体と協働して、催事場等での啓発グッズの配布を行う。また、商工会等を通して、事業者への環境基本計画の周知を図る。	環境政策課	継続	環境フォーラム等のイベントの際に、環境基本計画の概要版などの配布を行った。	A
	市民団体等が保有する環境情報を集約する仕組みづくりに取り組み、協働・連携して活動に取り組む主体間での情報共有を図る。	環境活動を行う団体間のネットワークの構築を目指す。	環境政策課	継続	環境フォーラム、環境施設見学会、環境講座、クリーン野川作戦等の開催を通じて、環境活動を行う団体間のネットワーク構築に寄与した。	A

2. 緑を守り育てる

小金井市は、国分寺崖線（はげ）と一体となった樹林地、玉川上水、小金井公園をはじめとする幾つもの公園、また農地、屋敷林など緑に恵まれています。

しかし、農地・屋敷林などの緑は減少を続けており、将来的に緑豊かな小金井を継承していくためには、いくつもの課題があります。減少が続く農地・屋敷林などの緑は、あらゆる方策を活用しながら小金井市全体の財産として残していかなければなりません。

また、公園や樹林地を適切に管理し、緑の質を向上させることが重要です。

緑には、良好な景観形成、水循環の保全、生きものの生息場所の提供、気温上昇抑制などの気候緩和をはじめ多面的な機能があり、他の基本目標にも関わっています。すべての主体が協力し合って、大切な緑を保全・回復していきます。加えて、「第4次小金井市基本構想」の『みどりと環境プロジェクト』－【みどりの創出】に取り組んでいきます。

【平成30年度の実績と今後の取組】

むさこぶらっと公園の開園、公園用地取得（小長久保公園）を行い計画的な公園整備を進めました。また、市民参加による公園管理体制の充実や、体験型市民農園等を通じた農業体験の機会の提供、農業の担い手の支援・育成のための取組を実施する等、市民の意識啓発等に一定の成果を得ました。市民農園についてはくりやま市民農園が開設となり、市民の土にふれる機会の拡充と農地の活用につながりました。

今後は、農家の後継者不足や、令和4年度の生産緑地一斉買取り申し出解禁による、緑地の減少も見込まれることから、特定生産緑地制度や生産緑地を円滑に貸借できる制度の説明を農業従事者等に行う等、都市農地の保全を推進し、小金井市にふさわしい緑の保全、創出に努めていきます。

2-1 緑の保全

- ・小金井市の特徴ある景観を形成している崖線と緑地は、地形と一体で保全していきます。
- ・大規模な公園緑地などの持続性が保証された緑地については、適切な管理や整備を継続していきます。
- ・所有者の理解を得ながら、ヒートアイランド現象の緩和や火災等に対する減災の面からも見直されている農地や屋敷林等の私有地の緑を保全していきます。
- ・私有地の緑の保全に効果のある既存制度の活用に加えて、支援のあり方を検討していきます。

第3章 基本計画の取組の進捗状況

- ・緑の現状について、継続的な把握・広報等に努め、市民などに緑の保全の重要性を理解してもらう啓発活動を推進していきます。
- ・小規模な公園などで、適切な管理が必要なところについては、市民参加による公園などの管理（アダプトプログラム）を普及・啓発していきます。
- ・公共施設敷地内への植樹を推進するとともに、民間の大規模施設においても事業者の理解を得ながら緑化を促進し、新しく緑を増やしていきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
2-1-1 永続的でまとまった緑地を保全する	緑の基本計画の推進等により、小金井市の特徴ある景観を形成している産線やまとまった緑地を地形と一体で保全する。	国分寺産線の緑が面的に確保されるように努め、緑と景観、湧水の保全が図られるようにする。	環境政策課	継続	国分寺産線の公共緑地の維持管理をし、緑と景観の保全を図った。	A
	大規模な公園緑地などの永続性が保証された緑地について、適切な管理や整備を継続していく。	安全性を保ち、快適に使用できるように管理に努める。	環境政策課	継続	危険樹木の伐採や定期的な剪定等を行い、維持管理に努めた。	A
2-1-2 民有地の緑を保全する	所有者の理解を得ながら、ヒートアイランド現象の緩和や火災等に対する減災の面からも見直されている農地や屋敷林等の民有地の緑を保全していく。	保全緑地活用、市民緑地制度を検討する。	環境政策課 農業委員会	継続	環境緑地・公共緑地の減少はなかった。 (環境政策課) ■農家支部別座談会 1月21日から25日までの5日間、11支部・計129人に対して座談会を実施し、特定生産緑地制度等の説明を行ったが、全農家への周知が完了していない。 (農業委員会)	B
	民有地の緑の保全に効果のある既存制度の活用に加えて、支援のあり方を検討していく。	保存樹木指定・保存生垣指定制度を啓発し活用する。	環境政策課	継続	保全緑地制度の案内を作成し、市内大学や寺社等に周知活動を行い、新規に64本の保存樹木の指定をした。	A
2-1-3 緑を適切に管理し、活用を推進する	緑の現状に関する調査をする。	緑の現状把握調査を継続する。 また、基礎データの蓄積を図り、緑化に関する普及・啓発に活用する。	環境政策課	継続	令和元年度に実施する緑の現状把握調査方法を検討した。	B
	緑の現状について、継続的に把握し、広報等に努め、市民などに緑の保全の重要性を理解してもらう啓発活動を推進する。	住民・事業者に緑の実態を広報し、保有者に対して保全を働きかける。	環境政策課	継続	事業者への広報には至らなかったが、保全緑地制度の広報を含め継続して保有者に対し、緑の保全を働きかけた。	B
	宅地開発等指導要綱により緑地を保全する。	まちづくり条例に規定する指定開発事業を行う場合、敷地面積の3%又は6%の緑地・公園を設置する。	まちづくり推進課 環境政策課	継続	3%の公園緑地設置件数：3件 6%の公園緑地設置件数：1件（むさごぶらっと公園） (まちづくり推進課・環境政策課)	A
	市民や専門家と連携し、緑地の保全・整備方針を検討する。	緑地保全対策審議会での検討や環境市民会議との連携など多面的な連携を進めていく。	環境政策課	継続	保全緑地の指定や、公園整備基本方針策定のため、緑地保全対策審議会を3回開催した。	A
	小規模な公園などで、適切な管理が必要なところについては、市民参加（ボランティア）による公園等の管理（アダプトプログラム）を普及・啓発する。	市民参加による公園等の管理を検討し、清掃、剪定、花壇の維持等をボランティアの協力を得て推進する。	環境政策課	継続	花壇ボランティア6団体、公園美化サポーター23団体、剪定ボランティア1団体が活動を行った。	A
	市民緑地制度の活用の可能性を検討する。	土地所有者の要望に基づき緑の基本計画の緑地の保全の施策に沿うものを検討する。	環境政策課	継続	緑の基本計画の施策に沿った内容を検討した。	A
	公共施設敷地内への植樹を推進するとともに、民間の大規模施設においても事業者の理解を得ながら緑化を促進し、新しく緑を増やしていく。	公共施設建設・改修工事の際には緑化を促進する。 また、民間の大規模施設においては環境配慮指針によって緑地等の確保に向けた指導を行う。	関係各課	継続	苗木供給制度を活用して649本の苗木を7施設に植樹した。 民間の大規模施設は開発面積に応じて、環境配慮指針に則り公園緑地等の設置を指導した。 (環境政策課)	A
	雑木林の保全を継続する。	環境緑地・公共緑地を継続して保全する。	環境政策課	継続	環境緑地：47,795.21㎡ 公共緑地：4,150.76㎡	A

2-2 緑の創造

- ・減少傾向にある緑を確保するため、緑の連続性に配慮した新たな公園緑地の確保や、まちづくり施策の中でも、計画的な公園整備を進めていきます。
- ・敷地や建物の緑化などを積極的に推進するために、助成などの啓発活動を実施していきます。
- ・緑を創造する取組にあたっては、緑の連続性、水との一体性の確保、在来種による緑化など地域の生態系に望ましい植物選びなどに配慮していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
2-2-1 新たな公園緑地等を確保する	減少傾向にある緑を確保するため、緑の連続性に配慮した新たな公園緑地を確保する。	公園整備事業によって緑地を継続して確保する。	環境政策課	継続	公園用地の取得（小長久保公園110㎡増）等を行い新たな公園緑地を確保した。	A
	まちづくり施策の中で、計画的な公園整備を進めていく。	土地区画整理事業で、適切な公園整備を図る。	区画整理課	継続	土地区画整理事業の進捗状況から、公園整備の具体的な検討に至らなかった。	C
2-2-2 緑化を推進する	沿道や遊歩道などの植栽や街路樹など連続性をもたせるようなまちづくりをする。	都市計画道路の整備に当たっては、歩道に植樹帯等を設け、街路樹を植栽する。	道路管理課	継続	都市計画道路3・4・12号線 植栽部なし 都市計画道路3・4・8号線 植栽部なし 都市計画道路3・4・3号線 植栽部なし 都市計画道路3・4・1号線 植栽部なし 都市計画道路3・4・14号線 植栽部なし	C
	敷地や建物の緑化などを積極的に推進するために、助成などの啓発活動を実施していく。	生け垣造成奨励金により助成する。	環境政策課	継続	市報で年2回の周知を行い、新規に1件の助成を追加した。	A
	公共施設の整備にあたっては、敷地などの緑化を推進する。	公共施設の建設・改修工事の際には緑化を促進する。	関係各課	継続	緑化の指導を行った。（環境政策課）	A
	緑を創造する取組にあたり、緑の連続性、水との一体性の確保、在来種による緑化など地域の生態系に望ましい植物選びなどに配慮する。	指定開発事業にあたって、都築定の「植栽時における在来種選定ガイドライン」を参考にし、緑化の協議を行っている。	環境政策課	継続	指定開発事業における緑化は「植栽時における在来種選定ガイドライン」を参考に指導した。	A
大型店舗や集合住宅などの駐車場等の緑化を促す。	指定開発事業にあたっては、小金井市環境配慮計画書の提出を事業者に求め緑化を促す。	環境政策課	継続	小金井市環境配慮指針に従い敷地面積から建物面積を除いた面積の20%以上の宅地内緑化を指導した。	A	

2-3 まちづくりにおける農の活用

- ・農業者や農業団体、市民などが連携して、まちづくりに農を位置付け、農業者が長期的な展望とやり甲斐を持って農業を続け、市民も緑の保全、地下水涵養、地産地消の新鮮で安心なおいしい食材の確保、土にふれる機会を得るなどの様々な恵みを享受できるようにします。
- ・農業者と一般市民とが顔の見える関係を大切にしながら、農業の担い手の支援や援農、交流を活発化し、営農の難しい農地は市民農園や体験型市民農園として存続に取り組みます。
- ・生物多様性と文化多様性の保全の観点から極めて重要な農作物や園芸作物の在来品種の保存に取り組んでいきます。

第3章 基本計画の取組の進捗状況

・小金井市の食料自給率を高める役割に加えて、農産物の流通による環境負荷の低減に寄与するため、野菜等の農作物の地産地消を促進させ、農地の保全・維持と地域の食文化の保全を推進します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
2-3-1 農地を保全・活用する	農業者や農業団体、市民などが連携して、まちづくりに農を位置づけ、農業者が長期的な展望とやり甲斐を持って農業を続け、市民も緑の保全、地下水涵養、地産地消の新鮮で安心なおいしい食材の確保、土にふれる機会を得るなどの様々な恵みを享受できるようにする。	認定認証農業者に対する補助制度の充実や、東京都の都市農業に関する補助制度を積極的に活用し、長期的かつ安定的な農業経営の確立を目指す。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> ■認定・認証農業者支援 申請数：9農家 執行額：3,000千円 ■都市農業活性化支援事業 申請者：東京むさし農業協同組合 執行額：13,500千円 補助上限に達したため、補助を受けられなかった農業者もあった。	B
	農業の担い手の支援・育成をする。	年間を通じ簿記講習会等を行い、農業経営の効率化を図る。認定農業者となった者から担い手支援を図っていく。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> ■認定・認証農業者支援 申請数：9農家 執行額：3,000千円 ■簿記講習会 講習会7回 参加人数延べ35人 補助上限に達したため、補助を受けられなかった農業者もあった。	B
	生産緑地を保全する。	都市計画公園と重複している箇所は、積極的な取得に努め、公園として整備を図る。生産緑地法等の改正に伴い生産緑地地区の指定基準が緩和されたため、農業者に積極的に周知を行い、追加指定による生産緑地地区の増加を図る。また、「都市農地の賃借の円滑化に関する法律案」が成立し、賃借が可能となった場合は、農園の開墾等の対策を講じ保全していく。	環境政策課 農業委員会	継続	生産緑地制度において、農家を対象に特定生産緑地制度、都市農地の賃借の円滑化に関する法律についての説明会や勉強会を農業委員会と連携して計8回実施したが、引き続き制度の周知が必要である。	B
	農地の保全に関する先進事例を調査・研究し、農地の保全・活用方策を検討する。	都市農地を有する自治体で構成する都市農地保全推進自治体協議会にて、都市農地の保全・活用の調査・研究を推進する。また、「都市農地の賃借の円滑化に関する法律案」成立後の具体的な方策について検討していく。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> ■都市農地保全自治体フォーラムの開催 開催日：平成30年11月20日 会場：たましんRISURUホール（立川市市民会館） 内容：フォーラム宣言、講演会等 都民に対し、新鮮な農産物や加工品等を販売し、都市農地の重要性を訴えたが、具体的な方策の検討に至っていない。	B
	農業者と一般市民とが顔の見える関係を大切にしながら、市民と農業者の連携による援農、交流を活発化する。	体験型市民農園を通じ、農業への理解と興味を育み、農業者と市民との交流を深める。また、平成29年度から本実施となった援農ボランティア事業を活用し、担い手不足等の課題を解決していくとともに市民と農業者の連携、交流を図っていく。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> ■体験農園 農園数：2農園 区画数：90区画 面積：4,489.46㎡ 夏作・秋作の農作物の講習会、収穫した農作物は収穫祭を行い、農業者と市民との交流を深めたが、例年と同規模の交流であり、規模拡大を図っていく必要がある。	B
	営農の難しい農地を市民農園や体験型市民農園として存続に取り組む。	引続き農園事業に取組む。また、「都市農地の賃借の円滑化に関する法律案」が成立し、生産緑地の賃借が可能となれば、生産緑地においても市民農園の開墾が可能となるため積極的に営農困難な農地を農園事業として活用していく。	経済課	継続	<ul style="list-style-type: none"> ■市民農園 農園数：3農園 区画数：136区画 面積：2,528.37㎡ 内容：市民が園芸を通じて土に親しみ、生産の喜びを味わうなど余暇生活の実現に貢献した。	A
農業や化学肥料の使用を抑えた環境保全型農業事業を促進する。	東京都工コ農産物認証制度を利用し、減農薬と減化学肥料に取り組む。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> ■東京都工コ農産物認証制度 認証農家数：2農家 チラシの配布や個別相談により制度の周知を図ったが、引き続き制度の周知が必要である。	B	

2-3-2 農作物や園芸植物の在来品種を保全する	生物多様性と文化多様性の保全の観点から極めて重要な農作物や園芸作物の在来品種の保存に取り組む。	農業祭や料理教室等のイベントを通じ江戸東京野菜のPRを行う。また、江戸東京野菜生産農家と市内飲食店を結びつけ、飲食店において使用できる環境整備を行う。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> ■江戸東京野菜を使った料理教室 開催回数：2回 参加人数：21人 ■農業祭での江戸東京野菜のPR展示 ■江戸東京野菜の栽培状況の発信 発信回数：3回 	A
2-3-3 食糧の自給と安全性を確保する	農家・大学・市民団体が連携し、地場産の農作物と食文化や地域行事との関わりを伝承していく。	農家・大学・市民団体が共に取り組めるイベント等を模索する。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> ■農業祭 開催日：平成30年11月10日～11日 会場：小金井宮地楽器ホール、フェスティバルコート等 内容：農産物品評会、即売会等 <p>上記のとおり実施したが、既存の取り組みであり、新たな取り組みを模索する必要がある。</p>	B
	小金井市の食料自給率を高める役割に加えて、農産物の流通による環境負荷の低減に寄与するため、地場野菜の利用・流通支援等により野菜等の農作物の地産地消を促進させ、農地の保全・維持と地域の食文化の保全を推進する。	一日生活教室を通じ、地場野菜を使った料理講習会を引き続き実施していく。また、学校給食の地場野菜の導入率を高めるため、栄養士と農家の打合せ等の調整について協力する。	経済課 農業委員会	継続	<ul style="list-style-type: none"> ■料理講習会 開催回数：1回 参加人数：26人 <p>地元夏野菜を使った料理教室を開催したが、定員30人に満たなかった。</p>	B

3. 地下水・湧水・河川の水循環を回復する

小金井市の自然環境の第一の特徴は、野川、玉川上水などの豊かな生態系や景観を形成する水辺環境です。中でも野川は、水のきれいさと親水性を考慮した河川整備により、市民の憩いの場所であるとともに市民の環境保全活動の拠点になっています。

一方、都市化の進展は、水の循環に大きな影響を与えています。例えば、湧水を源流とする川になった野川は、雨が少ないと瀬切れが発生することがあり、流量の減少は大きな課題となっています。また、一定量以上の降雨時には、下水道からの越流水が野川に排水されるため、水質に悪影響を及ぼすという問題が残されています。

今後も、引き続き地下水・湧水・河川のモニタリングを継続するとともに、市民等の地下水に関する関心や理解をさらに深めていきます。また、市民・事業者等とともに水辺のあり方や水利用のあるべき姿を考え、水循環の回復・実現に向けて連携を強化して、協働による取組を進めていきます。

【平成30年度の実績と今後の取組】

定期的な地下水・湧水の水質モニタリングを継続して行い、ほぼ例年通りの結果を得ました。地下水位測定については、環境市民会議が実施していましたが平成29年度で測定を終了したとの報告があったため、今後は市で測定を行うこととし調査対象地点の選定等の準備を行いました。また、地下水への影響が懸念される開発事業等については、事業者から提出された資料等をもとに地下水保全会議に意見を伺い、事業者に対して情報提供を行いました。

今後も引き続き、地下水・湧水の現状把握に努めるほか、開発事業等に際しては、専門家の知見を得ながら市街地化と共存した地下水・湧水・河川の保全に努めていきます。

3-1 地下水・湧水に関する現況把握

- ・定期的な地下水・湧水の水質モニタリングを継続していきます。
- ・市民・大学等の研究機関との連携を強め、定期的・継続的なモニタリング体制を充実していきます。
- ・地下水・湧水についての情報を収集・整理し、情報提供していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-1-1 地下水・湧水の現況を把握する	地下水水質の定期的な調査・監視をする。	定点での定期的な水質の検査をする。	環境政策課	継続	13か所、年4回7月、9月、11月、2月に実施した。	A
	定期的な湧水調査をする。	3か所の湧水調査を行っている。	環境政策課	継続	4か所、年2回6月、12月に実施した。	A
	定期的・継続的なモニタリングを可能にするため市民・研究機関等との連携など必要な仕組みを整える。	環境市民会議や東京都土木技術センターの井戸・湧水調査と連携・協力を行う。	環境政策課	継続	環境市民会議での地下水位測定は平成29年度をもって終了したこの報告を受けたため、市が実施することとなった。その準備として、調査対象とする井戸の選定を行った。	B
3-1-2 地下水・湧水についての情報を蓄積し、提供する	地下水・湧水についての情報収集・整理・分析を行い、調査データを蓄積してホームページ等で情報発信する。	井戸14地点湧水1地点の水質測定を年4回行い、地下水保全会議等を通して結果を分析している。	環境政策課	継続	井戸13か所年4回、湧水4か所年2回の水質測定を実施した。また、地下水保全会議（年3回7月、11月、2月実施）では、ボーリング調査結果データ等の分析を行った。	A

3-2 地下水・湧水の保全

- ・地下水・湧水を保全するため、さらなる雨水浸透ます等の設置の促進や、道路の雨水浸透性舗装の採用等の取組を推進していきます。
- ・雨水貯留施設（雨水タンク）設置等の市民・地域の取組の支援を継続していきます。
- ・地下構造物の建設によって、地下水の流れに影響が出ないように、「小金井市の地下水及び湧水を保全する条例」に基づき、工事等による地下水への影響をチェックしていきます。
- ・定期的な地下水の水質モニタリングにより、地下水質に影響のおそれのある事業活動等に対する監視・規制や指導を徹底していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-2-1 地下水位を確保する	地下水・湧水を保全するため、雨水浸透施設等設置を促進する。	市民に設置に係る支援の情報を広報して設置の協力をお願いし、昭和63年8月以前の建築物を既存建物とし、助成金を交付する。	下水道課	継続	市民に設置に係る支援の情報を広報して設置の協力をお願いし、昭和63年8月以前の建築物を既存建物とし、助成金を交付した。	A
	地下水・湧水を保全するため道路の雨水浸透性舗装の採用を推進する。	歩道舗装を透水性舗装にすることで、道路雨水の浸透を促進する。	道路管理課	継続	市道第1号線に透水性アスファルト53㎡を舗装した。	B
	雨水タンク設置を支援し、促進する。	雨水貯留施設設置費補助制度の広報に努め、設置率の向上を図る。	環境政策課	継続	引き続きホームページに掲載し、市報で情報提供を行った。また、フォーラム等でのチラシ配布を行った。平成30年度 5件 113,640円	A
3-2-2 地下水脈の分断を防止する	地下構造物の建設によって、地下水の流れに影響が出ないよう、地下水及び湧水を保全する条例に基づく地下水影響工事に係る書類を提出させ、工事等による地下水への影響をチェックしていく。	開発事業等による地下水への影響について、ボーリング調査データ等から状況を把握するとともに、提出された書類に基づき地下水保全会議の意見を聴き、必要に応じて地下水への配慮を求める通知を行うなどして影響の未然防止に努める。	環境政策課	継続	地下水への影響が懸念される開発事業等については、事業者がボーリング調査データ、杭状図などの資料の提出を依頼し、提出を受けた書類を元に地下水保全会議に意見を伺った。また、必要に応じて地下水影響工事の届出の提出を依頼している。（平成30年度0件）	A

3-2-3 地下水質を保全する	定期的な地下水の水質モニタリングにより、地下水質に影響のある事業活動に対する監視・規制や指導を徹底していく。	井戸14地点湧水1地点の水質を年4回測定することによって水質監視を継続するとともに、開発工事事業者・市民等に地下水保全条例の周知を継続する。	環境政策課	継続	水質測定を井戸13か所は、年4回7月、9月、11月、2月に、湧水4か所は、年2回6月、12月に実施した。また、開発における工事には、小金井市の地下水及び湧水を保全する条例を周知した。	A
-----------------	--------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------	-------	----	---------------------------------------------------------------------------------------------	---

3-3 河川環境の保全

- ・市民・行政・専門家等が協働し、都や流域自治体などへも働きかけながら、野川をはじめとする河川において、流量を安定的に確保する取組を推進していきます。
- ・生活排水の流入がなくなり、改善された野川の水質を今後も良好な状態のまま保ちます。
- ・一定以上の降雨時における下水越流水の河川流入による水質汚濁の防止に努めます。
- ・研究機関や市民団体と協働で、流量減少による生物への影響把握や保全・回復に向けた検討を進めます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-3-1 河川流量の安定的な確保に向けて協働する	市民・行政・専門家等が協働し、都や流域自治体などへも働きかけながら、野川をはじめとする河川において、流量を安定的に確保する取組を推進する。また、雨水浸透や雨水貯留による節水等の取組を促進させる。	雨水や用水の導入等、河川流量を増やす方策を検討する。助成金や設置費補助制度により雨水浸透ますや雨水貯留施設の設置を促進する。	環境政策課 下水道課	継続	■雨水貯留施設 5件、113,640円（環境政策課） ■雨水浸透ます 2件、146,000円（下水道課）	A
3-3-2 河川水質を良好に保つ	生活排水の流入がなくなり、改善された野川の水質を今後も良好な状態のまま保つ。	市民・事業者・市民団体等と行政が協働して、河川の一斉清掃などを定期的に実施する。	環境政策課	継続	5月に市民220人を集め、クリーン野川作戦を実施した。また、6月と11月に野川の水質調査を実施した。	A
	一定以上の降雨時における下水越流水の河川流入による水質汚濁の防止に努める。	道路上に雨水浸透ますを設置することにより、下水管きよへの雨水流入を抑制していく。	下水道課	継続	道路上に雨水浸透ますを設置することにより、下水管きよへの雨水流入を抑制した。	A
	研究機関や市民団体と協働で、流量減少による生物への影響把握や保全・回復に向けた検討を進める。	関係する近隣市や関係機関と協力して、河川等の再生に取り組む。	環境政策課	継続	野川流域連絡会、野川流域環境保全協議会、多摩川流域協議会などを通じて、近隣市や関係機関と連携して取り組んだ。	A

3-4 地下水・湧水生態系の保全

- ・崖線からの湧水量を確保するために重要な働きをしている、崖線緑地を保全していきます。
- ・年間を通じて安定的な水温を保ち、独特な生きものが生息する湧水生態系を、崖線緑地等と一体的に保全していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-4-1 崖線緑地を保全する	崖線からの湧水量を確保するために重要な働きをしている、崖線緑地を保全する。	国分寺崖線の緑が面的に維持・確保されるよう努めるとともに、湧水にいたる地下水の流れが妨げられないよう地下水保全条例を運用する。	環境政策課	継続	国分寺崖線の緑についても平成29年度と同等の面積を維持した。(40,620.16㎡)。	A
3-4-2 崖線緑地に育まれた湧水生態系を保全する	年間を通じて安定的な水温を保ち、独特な生きものが生息する湧水生態系を、崖線緑地等と一体的に保全する。	生物多様性の確保に重要な湧水生態系の生きもの調査を、団体との連携や市民参加で継続する。	環境政策課	継続	4か所、年2回6月、12月に実施した。	A

3-5 水の循環的利用

- ・家庭（日常生活）や事業所活動における節水の重要性を啓発し、節水行動を促進します。
- ・公共施設や大規模施設での中水利用を検討します。
- ・雨水を貯留し、散水などへの利用を実践していきます。
- ・災害時利用のための井戸の管理を徹底していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-5-1 節水を推進する	日常生活や事業活動における節水の重要性を啓発し、節水行動を促進する。	環境行動指針の啓発などを通じ節水意識の向上と実践に努める。	環境政策課	継続	希望する市民に環境行動指針を配布すると共に、全職員に環境マネジメントシステムハンドブックを配布し、節水を呼び掛けた。	A
3-5-2 用途に応じた合理的な水利用を推進する	公共施設や大規模施設での中水利用を検討する。	新設する公共施設の建設計画にあたっては、できる限り中水利用施設の設置を計画する。	関係各課	継続	新設する公共施設の該当がなかったため、設置及び計画実績なし。	C
	雨水を貯留し、散水などへの利用を実践する。	雨水貯留施設設置費補助制度により、設置率の向上に努める。	環境政策課	継続	5件、113,640円	A
3-5-3 地下水の適正利用に向けた環境を整える	災害時利用のための井戸の管理を徹底する。	防災井戸や災害用井戸を適正に管理する。	地域安全課	継続	防災井戸は年1回（2月）の保守点検及び水質検査を実施、災害用井戸（38件）は年1回（1月）水質検査を実施した。3箇所では採水不可、6箇所では飲用として適さないとの結果があったため、8箇所は経過観察、1箇所は協定解除することとした。	A

3-6 市民等の啓発と連携

- ・地下水や湧水の保全には、市民の参加・協働が不可欠であるため、地下水や湧水に関してわかりやすい形で情報提供を行っていきます。
- ・市民等が参加するモニタリング、学習会、環境保全活動を行い、地下水・湧水・河川への関心や理解を高め、環境保全活動を発展させていきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
3-6-1 情報収集や環境保全活動を連携して推進する	地下水や湧水に関する情報を市民に提供する。	地下水・湧水についての情報収集・整理・分析を行い、調査データをホームページ等で情報発信する。	環境政策課	継続	井戸13か所年4回、湧水4か所年2回の水質測定を実施した。また、地下水保全会議（年3回7月、11月、2月実施）で測定結果の分析を行い、環境報告書で結果を公開した。	A
	市民等が参加するモニタリング、学習会、環境保全活動を行い、地下水・湧水・河川への関心や理解を高め、環境保全活動を発展させる。	環境市民会議による地下水・湧水のモニタリングや環境講座を支援する。	環境政策課	継続	環境市民会議での地下水水位測定は平成29年度をもって終了したとの報告を受けたため、市が実施することとなった。その準備として、調査対象とする井戸の選定を行った。	B

4. 自然環境を一体的に保全する

現状、小金井市の自然環境は、東西には玉川上水と五日市街道沿い、また国分寺崖線と野川沿いに、水辺と緑が一体となって帯状につながっています。しかし、南北には水辺と緑のつながりはなく、かつてあった湧水や用水とその周辺の緑も、次第に減少しています。

崖線・緑・湧水の一体的な保全、大規模公園・緑地・大学などの緑・住宅地の緑のネットワーク化などを実現することは、市民にとっては良好な自然を享受できる生活環境を形

成することであり、そこに住む生きものにとっては生物多様性の維持にもつながります。

また、東京都の「緑施策の新展開～生物多様性の保全に向けた基本戦略～」を踏まえて、生物多様性保全計画の立案等に係る取組についても検討していきます。

【平成30年度の実績と今後の取組】

現存する緑の適切な維持管理や湧水の生きもの調査、市民向けの自然と触れ合うイベントの開催などが継続的になされ、市民への意識啓発などに一定寄与しました。

今後は、多様な生物と共生できる自然環境の保全・回復・再生活動の理解を深める啓発活動を推進していきます。

4-1 自然環境の保全

- ・水とみどりのネットワーク形成に努めます。
- ・湧水等の再生とともに、大規模公園・緑地・大学の緑や住宅地の緑をつなげ、水と緑を一体的に回復・創造していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
4-1-1 水と緑の連続性を確保する	大規模公園・緑地・大学の緑や住宅地の緑をつなげ、また、湧水等を再生させて、緑と水を一体的に回復・創造していく。	つながりが弱い南北の水とみどりのネットワーク形成のあり方等を検討し、水とみどりのネットワーク形成に努める。	環境政策課	継続	みどりのネットワークの形成には至らなかったが、現在の緑の適切な維持管理に努めた。	A

4-2 生物の多様性の保全

- ・ボランティア等の活動を推進し、学校花壇や農園、ピオトープ等の生物の生息空間の適正な維持管理に努めます。
- ・野川の自然再生に継続して取り組みます。
- ・湧水地の生きもの調査を団体や市民参加で継続し、調査結果を施策や環境教育に生かします。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
4-2-1 生息空間を保全・創出する	ボランティア等の活動を推進し、学校花壇や農園、ピオトープ等の生物の生息空間の適正な維持管理に努める。	学校花壇や農園、ピオトープ等の適正な維持管理に努める。	指導室	継続	学校花壇や農園、ピオトープ等の適正な維持管理に努めた。	A
	野川の自然再生に継続して取り組む。	野川調節池の自然再生の取組を充実していく。	環境政策課	継続	野川第一・第二調節池地区自然再生協議会を通じて、関係機関等と連携した。	A
4-2-2 動植物を保護する	湧水地の生きもの調査を団体や市民参加で継続し、調査結果を施策や環境教育に生かす。	湧水地の生きもの調査を継続する。	環境政策課	継続	4か所、年2回6月、12月に実施した。	A

4-3 人と自然とのふれあいの確保

- ・水とみどりのネットワークに沿って、遊歩道などの整備を検討します。
- ・市民・団体・事業者・大学等の教育機関・市が協働して、市内の自然にふれあえる環境

学習プログラムやイベントを開催していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
4-3-1 水や緑に親しめる遊歩道を整備する	水とみどりのネットワークに沿って、遊歩道などの整備を検討する。	廃減水路等を利用して、遊歩道・緑道などの整備が可能なかを検討する。	道路管理課	継続	遊歩道整備計画に基づき、整備可能な遊歩道は完了している。	A
4-3-2 自然にふれあう機会をつくる	市民・団体・事業者・大学等の教育機関・市が協働して、市内の自然にふれあえる環境学習プログラムやイベントを開催していく。	市民向けの環境ワークショップ等を企画し、実施する。	環境政策課	継続	環境フォーラム（1回）、環境施設見学会（1回）、環境講座（2回）、クリーン野川作戦（1回）を開催した。	A

5. 公害を未然に防止する

小金井市では、目立った公害は発生していませんが、住宅地で騒音や悪臭の苦情が発生するなどの生活型公害は少なくありません。

加えて、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の際に起こった原子力発電所の事故による放射性物質の拡散は、これまでの公害とは異なった形で市民に不安を与えてきています。

引き続き公害を未然に防止するため、市民みんなが身近な環境に配慮するとともに、行政や事業者等がそれぞれ監視・測定や規制・指導・発生抑制などの必要な措置をとるよう努めます。さらに、公害が発生した場合には、その影響を最小限に抑えるため、迅速で的確な措置がとれる体制を充実していきます。

また、化学物質対策におけるリスクコミュニケーションの促進やヒートアイランド対策を推進していきます。

【平成30年度の実績と今後の取組】

自家用車の利用から公共交通や自転車への交通手段の転換を促進するため、CoCoバス再編事業を開始したほか、駅周辺に自転車駐車を開設する等駐輪台数を確保しました。また、化学物質の適正管理、生活型公害への対応、放射能測定などが継続して行われ、公害の未然防止や、市民の生活環境の保全に寄与しました。

今後は、更なる公害対策の充実化を図り、公害の未然防止に努めていきます。

5-1 公害対策

- ・工場・指定作業場に対する排出抑制のための設備改善・設置への助成を継続します。
- ・自家用車利用から公共交通の利用や徒歩・自転車への交通手段の転換を推進します。
- ・公用車等に低公害車の導入を促進します。
- ・工場・事業所の排水について、監視・指導を行います。
- ・道路上に雨水浸透ますを設置することにより、下水管きよへの雨水流入を抑制していきます。
- ・土壌・地下水汚染対策について、事業所等に啓発していきます。
- ・汚染の未然防止に向けて、事業者による化学物質の適正管理や、除草剤等の適正使用を指導していきます。

- ・生活型公害に関する苦情処理・相談機能を充実していきます。
- ・放射能問題などの新たな公害問題について現状把握に努めます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
5-1-1 大気汚染対策を推進する	市内事業者等を対象として、地球温暖化対策や公害防止対策等に必要設備導入を推進する。	小金井市小口事業資金融資あっせん制度により、特別設備資金のあっせんを行い、特定金融機関から融資を受けた際の利子及び保証料の一部を補助する。	経済課	継続	■「特別設備資金」のあっせん申込み0件	B
	自家用車利用から公共交通や徒歩・自転車への転換促進をする。	CoCoバスの運行及び自転車利用により自家用車の運転を抑制する。 CoCoバスの運行ルートの見直しを含めた総合的な検証を行う。	交通対策課	継続	平成30年度より4年間の事業として小金井市コミュニティバス再編事業を実施し、平成30年度は現状分析や各アンケート調査、基本方針（案）の検討を行った。	A
	公用車等に低公害車の導入を促進する。	公用車の買い換えの際は、グリーン購入ガイドラインに基づき環境負荷の少ない車両を導入する。	環境政策課	継続	小金井市グリーン購入基本方針及びグリーン購入ガイドラインに基づき、購入する際は選定を行った。	A
	自転車駐車場の整備・駐輪台数の確保を推進する。	JR中央本線の高架下を含む駅周辺への自転車駐車場の整備を進める。	交通対策課	継続	武蔵小金井駅西側自転車駐車場及び同バイク駐車を民間事資金の活用により新規開設した。また、武蔵小金井北第1自転車駐車場の増設工事を実施した。	A
	アスベスト排出等作業届出受付と現場立会いをする。	2,000㎡以下の届出受付を行う。	環境政策課	継続	法律に基づく届出：8件 都条例に基づく届出：8件 市条例に基づく届出：24件	A
5-1-2 水質汚濁対策を推進する	工場・事業所への排水規制をする。	法等に基づく排水の監視及び立入検査を実施する。	下水道課	継続	法等に基づく排水の監視及び立入検査を実施した。	A
5-1-3 土壌・地下水汚染対策を推進する	土壌・地下水汚染対策について、事業所等に啓発する。	ホームページによる情報提供を行う。	環境政策課	継続	ホームページによる情報提供を行った。	A
	汚染の未然防止に向けて、事業者による化学物質の適正管理や、除草剤等の適正使用を指導する。	広報を通じて、除草剤の適正使用を周知する。	環境政策課	継続	市報5月15日号において、除草剤の適正使用について広報した。	A
	化学物質の適正管理を促進する。	化学物質取扱い事業所から使用量報告をもらう。	環境政策課	継続	都条例報告実績：14件 市条例報告実績：5件	A
	低農薬で安全な作物の生産を推奨する。	残留農薬検査に対し補助を行い、低農薬で安全な作物の生産を推奨する。	経済課 農業委員会	継続	農業振興連合会を通じ、残留農薬検査を実施したが、引き続き推奨していく必要がある。	B
5-1-4 その他の生活環境への影響を防止する	地区計画制度、建築協定によるまちづくりを推進する。	まちづくり条例により、地区計画制度、建築協定の作成手続き等の支援を行う。	まちづくり推進課	継続	本町四丁目地区地区計画を策定した。	A
	生活型公害に関する苦情処理・相談機能を充実する。	国・都等の研修制度を利用し、苦情処理・相談に対する対応方法等の向上を図る。	環境政策課	継続	国、東京都及び東京都環境・公害事務連絡協議会主催の研修等に必要に応じて参加した。	A
	放射能問題などの新たな公害問題について現状把握に努めるとともに学校給食等の安全性を確保する。	空間放射線量の測定及び給食食材放射性物質の測定結果をホームページ等により情報提供する。 また、希望する市民に対し、食品の放射能測定を、市民協働で実施する。	環境政策課 経済課 地域安全課	継続	空間放射線量測定を市内56カ所で年1回実施した。 （環境政策課） 測定件数52件（一般市民） ※平成30年4月19日～10月15日まで測定器故障のため測定中止。 （経済課） 給食食材放射性物質の測定（小中学校292件、保育園309件）を実施し、結果を市ホームページにより公表した。 （地域安全課）	B

5-2 有害化学物質対策

- ・公共施設のシックハウス状況を測定し、改善します。
- ・市民・事業者に対して化学物質の適正な使用・管理・廃棄を指導します。

第3章 基本計画の取組の進捗状況

- ・P R T R制度や都の環境確保条例に基づく情報を提供します。
- ・化学物質に関するデータベースを活用し、市民等への情報提供に努めます。
- ・化学物質の環境リスク情報を提供していきます。
- ・市民や事業者とのコミュニケーションのさらなる促進を図ります。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
5-2-1 化学物質を適正管理する	教室等公共施設のシックハウス状況の調査測定・改善をする。	公共施設における机・椅子・コンピュータ等の備品購入の際、必要に応じてシックハウス状況の調査測定を行う。	学務課 保育課	継続	現在のところ、特に基準値以上の値は検出されていないが、引き続き検査は随時行っていきたい。 (学務課) 今年度は改修工事等がなかったことから、実績はない。 (保育課)	A
	市民・事業者に対して化学物質の適正な使用・管理・廃棄を指導する。	化学物質取扱事業所から使用量報告をもらう。	環境政策課	継続	都条例報告実績：14件 市条例報告実績：5件	A
	P R T R制度や環境確保条例に基づく情報提供をする。	ホームページによる情報提供をする。	環境政策課	継続	ホームページによる情報提供を行った。	A
	化学物質に関するデータベースの整備・活用を行い、市民等への情報提供をする。	化学物質に関する情報をホームページ等により提供をする。	環境政策課	継続	化学物質に関する情報をホームページにより提供した。	A
5-2-2 リスクコミュニケーションを促進する	化学物質の環境リスク情報の公開をする。	環境リスクに関する情報をホームページ等により提供をする。	環境政策課	継続	環境リスクに関する情報をホームページにより提供した。	A
	市民や事業者とのコミュニケーションの更なる充実を図る。	環境リスクに関する情報を市民・事業者と共有する。	環境政策課	継続	ホームページや設置チラシによる情報提供、また、窓口対応時における情報交換等を行った。	A

5-3 ヒートアイランド対策

- ・建物敷地・道路・建築物における緑化を促進します。
- ・道路等の人工地盤における雨水浸透性や保水性の向上を図ります。
- ・省エネルギー性能の優れた建築物の普及促進により、人工排熱の低減を図ります。
- ・緑のカーテンを普及促進します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
5-3-1 建物敷地・道路・建築物のコンクリート面やアスファルト舗装を見直す	建物敷地・道路・建築物における緑化を促進する。	小・中学校（6校）の運動場芝生維持管理を進める。	庶務課 道路管理課	継続	小・中学校（6校）の運動場芝生維持管理を行った。 (庶務課) 管理道路（旧水路敷）にクランメツツジを30株・ドードンツツジを4株植樹した。 (道路管理課)	A
	道路等の人工地盤における雨水浸透性や保水性の向上を図る。	歩道の透水性舗装を促進する。 雨水貯留施設（雨水タンク）の設置を推進し、打ち水の取組を奨励する。	道路管理課 環境政策課	継続	市道第1号線に透水性アスファルト53㎡を舗装した。 (道路管理課) 雨水貯留施設5件に補助を行い、打ち水イベントを実施した。 (環境政策課)	B
	省エネルギー性能の優れた建築物の普及促進により、人工排熱の低減を図る。	公共施設等においてエクセルギーを有効に活用する。	環境政策課	継続	公共施設の新築や改修においては、極力、省エネルギー性能の高いものになるよう呼びかけている。	A
5-3-2 緑の保全・壁面緑化等を普及促進する	緑のカーテンを普及促進する。	公共施設を対象に屋上緑化・壁面緑化を推進する。	庶務課 環境政策課	継続	環境学習館で緑のカーテンを行った。 (環境政策課) 未実施 (庶務課)	B

6. 小金井らしい景観をつくる

「小金井らしい景観」について、多くの人の合意した共通理解はありません。環境要素として価値のある水と緑が一体となった景観や文化遺産を含め、「小金井らしい景観」とは何かについて市民とともに考え、共通認識を形成することが必要です。多くの市民が小金井らしさを感じる国分寺崖線や農地、屋敷林などの緑、自然とのつながりの中で形成されてきた有形・無形の文化遺産の保全に努めます。

【平成30年度の実績と今後の取組】

不法投棄や農地のパトロール、ごみ出しや屋外広告のマナー啓発等のまちなみを美しく保つための取組を継続して行い、景観の確保に寄与したほか、市制施行60周年記念及び明治150周年記念事業と位置づけた企画展示及び講演会を実施し、市民が文化財とふれあい、親しめる機会を提供しました。

今後も引き続き、現状の取組を継続しながら、自然環境や歴史的景観を保全し、周辺との調和が図られた「小金井らしい景観」の創造に努めていきます。

6-1 小金井らしい景観の確保

- ・国分寺崖線や農地、屋敷林などを保全・活用していきます。
- ・指定開発事業においては、環境配慮指針に基づき小金井らしい景観を守り、環境負荷の少ない施設整備を進めていきます。
- ・ポイ捨ての防止などの普及啓発活動を促進させ、環境美化活動を継続します。
- ・ごみ出しマナーの向上に向けた普及啓発活動を継続します。
- ・屋外広告物のマナーの向上に向けた普及啓発活動を継続します。
- ・アダプトプログラムを推進します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
6-1-1 小金井らしい景観を保全する	国分寺崖線や農地、屋敷林などを保全し、活用していく。	環境保全緑地や保存樹木の指定等を行い、緑地の保全を図る。	環境政策課 農業委員会	継続	生産緑地は減少したものの、環境保全緑地の指定については、平成29年度と同様の指定内容を維持した。 環境緑地：47,795.21㎡ 公共緑地：4,150.76㎡ 保存樹木：807本 保存生垣：3,966.20m (環境政策課) ■農地利用状況調査 期間：8月～10月 (別途随時見回り) 低利用の農地があった。 (農業委員会)	B
	指定開発事業においては、環境配慮指針に基づき小金井らしい景観を守り、環境負荷の少ない施設整備を進めていく。	指定開発事業にあたっては、事業者が環境配慮指針に適合するような計画にするよう指導の徹底を図る。	まちづくり推進課 環境政策課	継続	指定開発事業において環境配慮指針に基づく宅地内緑化実施件数：9件 (まちづくり推進課・環境政策課)	A

第3章 基本計画の取組の進捗状況

6-1-2 まちなみを美しく保つ	ポイ捨ての防止などの普及啓発活動を促進させ、環境美化活動を継続する。	定期的なパトロールの実施及び不法投棄厳禁・ポイ捨て禁止等の啓発看板を設置する。	ごみ対策課	継続	不法投棄が多い箇所へのパトロール実施。市民への各種啓発看板の配布を実施。路上禁煙地区については、清掃活動の実施及び路面標示を設置。	A
	ごみ出しマナーの向上に向けた普及啓発活動を継続する。	市報・市ホームページ・アプリ等広報媒体を活用した周知を行い、ごみ出しマナーの向上に努める。	ごみ対策課	継続	カレンダー、市報、市ホームページ及びアプリを活用してマナー向上の啓発を実施したほか、排出マナーの悪い事業所等への直接指導を実施。	A
	屋外広告物のマナーの向上に向けた普及啓発活動を継続する。	パンフレットを作成し配布する。	道路管理課	継続	違反処理による除却枚数：はり紙315枚、はり札等33枚、広告旗8枚、立看板等11枚	A
	アダプトプログラムを推進する。	アダプトプログラムによる環境美化サポーター制度の活用促進や、新たなプログラムの開発を推進する。	企画政策課 環境政策課 道路管理課 ごみ対策課	継続	市ホームページで、環境美化サポーター制度（アダプト・プログラム）の周知をしている。 （企画政策課） 環境美化サポーター制度に従い、18団体と協定を結び、環境美化活動に取り組んだ （環境政策課） 団体及び個人により市道等の清掃が行われている。会員数は346名。市民との協働による環境美化活動を推進したい。 （道路管理課）	A

6-2 文化遺産の保全

- ・現地視察などを通じて、文化遺産とふれあい、親しむ機会を提供していきます。
- ・玉川上水・五日市街道等の歴史的風致や浴恩館等の史跡の活用に向けて情報提供を行います。
- ・水田・用水路復活としての自然再生事業を支援します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
6-2-1 文化遺産を保全・継承する	現地見学などを通じて、文化財とふれあい、情報や親しむ機会を提供する。	文化財センターでの展示、各種講座、文化財・史跡めぐりをテーマとしたまち歩き等を実施する。	生涯学習課	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展1回（古地図を修復し、作成したレプリカの展示、解説を含む） ・市制施行60周年記念及び明治150周年記念講演会「絵図でたどる幕末、明治」1回 ・文化財講演会1回 ・古文書講座2回 ・史跡めぐり1回 	A
	農地・屋敷林・社寺・ハケの緑地の保全をする。	緑地保全については関係課と相互の調整を図る。法に基づく適正な農地の肥培管理を促す。制度を活用した保全を図る。農地・屋敷林等について、所有者と保全に向けた調整を図る。	経済課 農業委員会 環境政策課	継続	<ul style="list-style-type: none"> ■農地利用状況調査 期間：8月～10月（別途随時見回り） 低利用の農地があった。（経済課・農業委員会） ■小金井市緑地保全及び緑化推進条例に基づき緑地の所有者からの申請により緑地の保全を図った。 環境緑地：47,795.21㎡ 公共緑地：4,150.76㎡ 保存樹木：807本 保存生垣：3,966.20m （環境政策課） 	B

6-2-2 文化遺産をまちづくりに生かす	玉川上水や浴恩館等の史跡の保全・活用に向けて情報提供や親しむ機会を作る。	文化財センターで文化財等の企画展を開催することや文化財めぐりで現地を見てもらう。	生涯学習課	継続	・季節展1回(名勝小金井サクラ復活事業の進捗状況も展示に含め市民に周知を図った) ・玉川上水・小金井桜整備活用計画の説明を付したパンフレット「名勝小金井(サクラ)」を作成し、市民に配布することにより、事業及び名勝小金井(サクラ)の市民周知を図った。 ・市制施行60周年記念事業として、名勝小金井(サクラ)関連の絵と説明書を付したクリアファイルを作成し、名勝小金井(サクラ)に関する情報提供を図った。	A
	水田・用水路復活としての自然再生事業を支援する。	野川自然協議会に参加し、野川調節池での自然再生事業に係る活動の運営を支援する。	環境政策課	継続	野川調節池での自然再生事業に係る活動支援施設への支援を行った。	A

7. ごみを出さない暮らしとまちをつくる

ごみの処理・処分は、地域環境・地球環境に負荷が生じる一方で、事務事業におけるコスト増加につながります。

ごみ減量をさらに進めるためには、市民・事業者・行政の連携を強化するとともに、ごみを出さないライフスタイルを推進し、発生抑制を最優先とした3Rの取組を実践することが重要です。そして、使えるものは何度でも使うリユースと、分別を徹底し、資源になるものを捨てずに再生して利用するリサイクルに努めることが重要です。

【平成30年度の実績と今後の取組】

食器リサイクル事業が休止となっていますが、使える食器を捨てるのはもったいないとの市民の声にこたえるため、リユースを目的として食器の回収を再開しました。

本市は、市民の方々のご協力により、人口10万人以上50万人未満の市町村において、1人1日当たりのごみ排出量が最も少ないということや、リサイクル率も第1位という高い数値を示していますが（環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等（平成29年度）について」より）、本市の状況から、今後も引き続き3Rを推進し、更なるごみの減量に取り組めます。

7-1 ごみを出さない

- ・簡易包装や量り売りの励行等による包装材の削減、レジ袋の削減等を奨励します。
- ・分別等の指導により、ごみの減量及び資源化を促進させます。
- ・ごみを出さないライフスタイルを普及啓発していきます。
- ・ごみを出さないこと（発生抑制）を最優先とし、リユース、リサイクルを意識した行動を実践することができるように、啓発活動を強化します。
- ・ごみをテーマとした環境学習の場を提供していきます。

第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
7-1-1 ごみになるものはもらわない・買わない	簡易包装や量り売りの励行等による包装材の削減、レジ袋の削減等を奨励する。	市報・市ホームページ等広報媒体を活用して、ごみになるものはもらわない・買わない取組やリサイクル推進協力店認定制度の周知を図る。	ごみ対策課	継続	平成30年度末現在15店舗認定。ごみリサイクルカレンダー、市報ごみ減量・リサイクル特集号及び市ホームページで、リサイクル推進協力店の情報を掲載。	A
	分別等の指導により、ごみの減量及び資源化を促進させる。	事業所の排出状況調査及び分別等の指導を行う。	ごみ対策課	継続	事業所へのごみ減量と資源化について指導を継続する。（平成30年度実績6事業所）	A
	マイバック持参を奨励する。	消費生活展等において、引き続き、啓発用グッズを配布し、マイバック持参を奨励する。	経済課	継続	消費生活展や消費者ルームまつりの来場者に啓発用グッズを配布した。	A
7-1-2 ライフスタイルを変える	ごみを出さないライフスタイルの普及啓発をする。	市報・市ホームページ等広報媒体での周知、キャンペーンの実施及びイベントへの出展等により、ごみを出さないライフスタイルを推進する。	ごみ対策課	継続	市内外イベント等でDVDや冊子等を活用し、ごみ減量啓発活動を随時実施。	A
	ごみを出さないこと（発生抑制）を最優先とし、リユース、リサイクルを意識した行動を実践することができるよう、啓発活動を強化する。	市報・市ホームページ等広報媒体での周知、キャンペーンの実施及びイベントへの出展等により、発生抑制を最優先とした3R（発生抑制、リユース、リサイクル）を推進する。	ごみ対策課	継続	市報ごみ減量・リサイクル特集号及び市ホームページで情報を提供。	A
	ごみをテーマとした環境学習の場を提供する。	小・中学校や町会・自治会・子供会等へ市職員を講師として派遣する出張講座を実施する。	ごみ対策課	継続	出張講座（12回）等で啓発活動を実施。	A

7-2 資源循環の推進

- ・リユース（再使用）に取り組むための情報を提供していきます。
- ・ごみの分別の徹底を図ります。
- ・販売事業者に対してトレイ等の自主回収・処理を継続的に働きかけていきます。
- ・品目別のリサイクルのルート構築に取り組みます。
- ・市民が効果を実感できるリサイクルのあり方を引き続き検討します。
- ・グリーン購入を周知し、普及啓発を進めます。
- ・市の事務事業では、グリーン購入に率先して取り組みます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
7-2-1 リユースを促進する	リユース（再使用）に取り組むための情報を提供する。	市報・市ホームページ等広報媒体を活用して、リユース施策等の情報を提供する。また、家庭で使わなくなった物を譲りたい方、譲ってほしい方に利用してもらうため、不用品交換コーナーの活用を市報等で周知する。	ごみ対策課 経済課	継続	市報ごみ減量・リサイクル特集号及び市ホームページで情報を掲載。（ごみ対策課） リサイクルバザー出展者98人・利用者477人 おもちゃの病院利用者53人 食器リユース利用者74人（平成30年10月より再開） 不用品交換コーナー〈常設〉登録件数56件（経済課）	A
	市民が効果を実感できるリサイクルのあり方を引き続き検討する。	消費者団体の取組みを支援し、再利用・再資源・省資源化を推進する。	経済課	継続	食器リユース回収量258kg ※平成30年10月～平成31年3月	A
	環境学習関連資料を提供する。	環境教育にかかわる資料を学校に提供する。	指導室	継続	環境教育にかかわる資料を学校に提供した。	A

7-2-2 分別排出・回収の取組を強化する	ごみの分別の徹底を図る。	清掃指導員による分別指導を強化する。	ごみ対策課	継続	市民からの要望等があった際に随時清掃指導員を派遣し、分別指導を実施した。	A
	販売事業者に対してトレイ等の自主回収を継続的に働きかける。	自主回収・自主処理を行う店頭回収事業所の拡大に向けて、事業所への働きかけを行う。	ごみ対策課	継続	自主回収・自己処理を行っている3店舗を新たにリサイクル推進協力店に認定した。	A
	品目別のリサイクルのルート構築に取り組む。	効率的な資源化ルートを構築し有効利用先を確保する。	ごみ対策課	継続	適切で効果的な資源化ルートを確保し資源化を行った。また関係機関との情報交換に努め、新たな資源化ルートについても随時調査、研究を実施している。	A
7-2-3 グリーン購入を推進する	グリーン購入を周知し、普及啓発を進める。	ホームページ等を活用し、市民・事業者等にグリーン購入についての普及啓発を図る。	環境政策課	継続	平成29年度グリーン購入実績とともにグリーン購入ガイドライン・基本方針をホームページに掲載し、普及啓発を図った。	A
	市の事務事業では、グリーン購入に率先して取り組む。	庁内のグリーン購入実績をホームページで公表し市の取組として報告する。	環境政策課	継続	平成29年度グリーン購入実績をホームページに新たに掲載した。	A

7-3 適正な処理

- ・ごみ収集車両等には、環境負荷の少ない車両の導入に努めます。
- ・一般廃棄物の減量や適正処理を徹底し、廃棄物処理による環境負荷を削減します。
- ・燃やすごみの共同処理を目指し、新可燃ごみ処理施設の整備を行います。
- ・不燃・粗大ごみ処理施設のあり方を検討します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
7-3-1 環境負荷の少ない収集運搬・中間処理・最終処分を目指す	ごみ収集車両等には、環境負荷の少ない車両の導入に努める。	ごみ収集車両の買い換えの際には、環境負荷の少ない車両を購入する。	ごみ対策課	継続	直営については導入実績無したが、委託は買い替えの際に導入している。	A
	一般廃棄物の減量や適正処理を徹底し、廃棄物処理による環境負荷を削減する。	収集された不燃系ごみの徹底した選別を行い、資源化処理を図る。	ごみ対策課（中間処理場）	継続	平成30年度埋立処理量 0 t 平成30年度中間処理場施設資源化量 3,781 t	A
7-3-2 新たな処理施設のあり方を検討する	可燃ごみの共同処理に向けて、新可燃ごみ処理施設の整備を行う。	浅川清流環境組合（構成市：日野市、国分寺市、小金井市）で実施する新可燃ごみ処理施設整備・運営事業が円滑に進むよう、構成市として与えられた責任を果たす。	ごみ対策課	継続	浅川清流環境組合では令和2年度の新可燃ごみ処理施設本格稼働を目指して建築工事を進める中、平成30年12月にはプラント工事も開始した。本市は組合構成団体として与えられた責任を果たした。	A
	不燃・粗大ごみ処理施設のあり方を検討する。	清掃関連施設整備基本計画に基づき、施設整備予定地周辺住民のご意見も伺い、施設整備事業に取り組む。	ごみ対策課	継続	小金井市清掃関連施設整備基本計画に基づき、小金井市清掃関連施設整備事業者選定委員会、本事業の設計・施工を一括で請け負う事業者の選定に向けて、発注仕様書及び事業者の選定のための選定基準の作成を進めた。 また、発注仕様書に中間処理場（貫井北町）及び二枚橋焼却場跡地（東町）の施設整備予定地周辺にお住まいの皆様のご要望等を反映させるため、それぞれ協議等を進めた。	A

7-4 有機性資源の有効利用

- ・生ごみ減量化処理機器の普及を図ります。
- ・堆肥化施策による生ごみの資源化を推進します。
- ・枝木・雑草類・落ち葉等の有効利用を推進します。

第3章 基本計画の取組の進捗状況

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
7-4-1 生ごみの堆肥化利用を促進する	生ごみ減量化処理機器の普及を図る。	市報・市ホームページ等広報媒体を活用して、生ごみ減量化処理機器購入費補助制度を広く周知する。	ごみ対策課	継続	平成30年度実績 電動式259件、コンポスト4件 目標としていた件数に到達しなかった。	B
	堆肥化施策による生ごみの資源化を推進する。	生ごみ堆肥化施策を推進し、有機性資源の有効利用を推進する。	ごみ対策課	継続	市立小中学校等に設置している生ごみ処理機、戸別回収及び拠点回収により生ごみ乾燥物を回収した（回収量48,635kg）。	A
7-4-2 剪定枝等の資源化を推進する	学校樹木の剪定・枝葉資源化事業をする。	剪定枝・落葉・雑草を堆肥化し燃やすごみを減量する。	学務課 保育課	継続	チップマシーンにより各学校でチップ化している。また、チップ化できない太枝については、請負業者がリサイクルした。 （学務課） 落葉等を腐葉土として、畑作りや花壇に使用した。 （保育課）	A
	公園・街路樹等の剪定を行い、枝葉を利用する。	剪定枝のチップ化を行い、緑のリサイクルに努める。 また、街路樹の管理委託業者に、発生した枝葉等は自らリサイクル（チップ化等）に努めるように指示する。	環境政策課 道路管理課	継続	チップ化したものを、市の公園緑地の敷き均し材として使用。 （環境政策課） 再利用ができる施設に搬入するよう指示した。 ・搬入量78.1t （道路管理課）	A
	公園の枯葉を堆肥にして、農家に提供する。	緑のリサイクルをする。 情報の共有化を図る。 ※東京電力福島第一原子力発電所の事故により放射性物質が原子炉から大気中に放出されたため、落葉堆肥の生産・流通については国から自粛するよう通知がなされている。 状況により事業を再開する。	環境政策課 農業委員会	継続	国からの落葉堆肥の生産・流通についての自粛要請に従い、事業は実施しなかった。緑のリサイクルについては情報共有を図った。 （環境政策課・農業委員会）	B
	枝木・雑草類・落ち葉の有効利用を図る。	市報・市ホームページ等広報媒体を活用して周知に努め、可燃ごみの減量に繋がる枝木・雑草類・落ち葉の更なる有効利用を図る。	ごみ対策課	継続	平成30年度回収実績 1,465,060kg	A

8. 地域から地球環境を保全する

地球温暖化対策は、世界各国が連携して推進するグローバルな環境保全活動も重要ですが、市民・事業者・行政がそれぞれの立場から省エネルギー、再生可能エネルギーを考慮した生活・事業の取組を進め、地域が一体となって行動することが極めて重要です。

小金井市では、「小金井市地球温暖化対策地域推進計画」の見直しを行い、計画をさらに推進していきます。また、再生可能エネルギー等の導入促進などによって、地球規模の環境の悪化につながる行動を見直し、地球市民として積極的に環境保全活動に参画する環境にやさしい仕組みづくりを進め、地域から地球環境への負荷の軽減を図ります。

【平成30年度の実績と今後の取組】

環境行動チェックリストに基づいた職員の環境行動のチェック、公共施設の照明LED化、再生可能エネルギー等の導入促進等、地球温暖化対策の一環となる取組を継続して行いました。

庁内のガス使用量は大幅に削減できましたが、電気・水使用量については微増となりました。今後も小金井市環境マネジメントシステムを通じて、更なる節約を呼びかけていきます。

8-1 地球温暖化の防止

- 地球温暖化対策地域推進計画に基づいて、地球温暖化対策を総合的に推進します。
- 電気・ガス・水を節約します。
- 自動車の運行によって排出される二酸化炭素の排出削減を目指します。
- エネルギーを削減するライフスタイルの普及啓発活動を促進します。
- 公共施設への再生可能エネルギー利用設備の導入に努めます。
- 住宅に対する再生可能エネルギー等利用設備の導入を支援します。
- 自転車駐車場の整備とともに自転車利用を促進するなど、自動車に依存しない、環境に配慮した都市整備を進めます。
- 公共施設整備において、省資源・省エネルギー・雨水浸透・雨水利用・緑化・再生可能エネルギー活用等による環境配慮事業を促進します。
- 建築物等におけるエネルギー負荷の削減を促進します。
- 既存の緑や河川等の水辺を生かして、まちの東西・南北に水とみどりのネットワークの形成を図ります。
- 指定開発事業について、環境配慮指針に基づき、事業計画を指導していきます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
8-1-1 地球温暖化対策を推進する	地球温暖化対策地域推進計画に基づいて、地球温暖化対策を総合的に推進する。	地球温暖化対策実行計画（市役所版）を推進し、市内の温室効果ガスを削減する。	環境政策課	継続	温室効果ガス排出量実績： 5,278,136kg （基準年度比 12.7%増、前年度比 17.6%減）	A
8-1-2 エネルギー利用に伴う環境負荷を削減する	電気・ガス・水を節約する。	市内の電気・ガス・水道を節約する。	全課	継続	前年度増減率の数値 電気使用量 前年度比 0.57%増 ガス使用量 前年度比 38.64%減 上下水道量 前年度比 4.1%増	B
	自動車の運行によって排出される二酸化炭素の排出削減を目指す。	庁舎間あるいは公共施設間の移動には、徒歩や自転車利用のほか公共交通機関の利用に努め、市民・事業者に対しても公共交通機関の利用を促進する。また、エコドライブ講習会を実施する。	環境政策課 交通対策課	継続	5月と11月にエコドライブ講習会を全8回実施した。（参加者22名） （環境政策課） 平成30年度より4年間の事業として小金井市コミュニティバス再編事業を実施し、平成30年度は現状分析や各アンケート調査、基本方針（案）の検討を行った。 （交通対策課）	A
	エネルギーを削減するライフスタイルの普及啓発活動を促進する。	環境行動指針のチェックシートを活用する。	環境政策課	継続	環境イベント等の開催時に環境行動指針を配布し、市民にライフスタイルの変換を促した。	A
8-1-3 エネルギーを創出する（再生可能エネルギー）	公共施設への再生可能エネルギー利用設備の導入に努める。	公共施設の建設・改修工事では、環境に配慮した施設整備を促進するとともに、建替えや大規模改修の際には、太陽光発電・雨水貯留施設等の設置を検討する。	関係各課	継続	公共施設の建設・改修工事等がなかった。	C
	住宅に対する再生可能エネルギー等利用設備の導入を支援する。	住宅用新エネルギー機器等普及促進補助金により、住宅における再生可能エネルギー機器等の設置を支援する。また、小金井市増改築資金あっせん制度により、自己の居住する家屋の増改築、太陽光発電設備等の設置を行う市民に、その資金の一部の融資をあっせんし、利息の助成を行う。	環境政策課 まちづくり推進課	継続	燃料電池 100件 5,000,000円 太陽光発電設備 30件 2,666,000円 蓄電池システム 12件 600,000円 太陽熱温水器 1件 15,000円 （環境政策課） 平成30年度 新規：0件 継続：1件（途中完済） （まちづくり推進課）	A

第3章 基本計画の取組の進捗状況

8-1-4 エネルギーの使用削減を目指した低炭素まちづくりを推進する	自転車駐車場の整備とともに自転車利用を促進するなど、自動車に依存しない、環境に配慮した都市整備を進める。	公道にある放置自転車等を継続的に撤去し、駐車秩序の確立を図る。	交通対策課	継続	撤去台数：2,376台（前年度3,044台）	A
	公共施設整備において、省資源・省エネルギー・雨水浸透・雨水利用・緑化・再生可能エネルギー活用等による環境配慮事業を促進する。	公共施設の整備に際して、環境に配慮した施設整備を促進するとともに、建替えや大規模改修の際には、太陽光発電・風力発電の設置を検討する。	関係各課	継続	小金井市立小金井第四小学校非構造部材改修工事(LED照明31台設置)、小金井市立緑小学校屋上防水改修等工事(LED照明10台設置)、小金井市立小金井第二中学校トイレ改修工事(LED照明27台設置)、小金井市文化財センタートイレ設備改修工事(LED照明5台設置)、小金井市緑児童館改修工事(LED照明3台設置、高効率空調用機器設置(EHP2台)) (建築営繕課)	A
	建築物等におけるエネルギー負荷の削減を促進する。	断熱性能向上やエクセルギーの有効活用など、住宅等における省エネ対策を促進する。また、雨水を生かしたまちづくりをめざし、雨水浸透ます・雨水貯留施設の設置を推進する。	環境政策課 下水道課	継続	補助金により雨水貯留施設の設置を推進した。5件、113,640円（環境政策課） 補助金により雨水浸透ますの設置を推進した。2件、146,000円（下水道課）	A
	既存の緑や河川等の水辺を生かして、まちの東西・南北に水とみどりのネットワークの形成を図る。	温室効果ガス吸収源として、産線・農地・屋敷林・寺社林等の緑を保全する。	環境政策課	継続	産線のみどりは継続して保全を図り(40,620.16㎡)、農地と屋敷林ともに大幅な減少はなかった。	A
指定開発事業について、環境配慮指針に基づき、事業計画を指導していく。	指定開発事業には、小金井市環境配慮計画書の提出を事業者に求め、環境に配慮した開発事業を指導する。	まちづくり推進課 環境政策課	継続	指定開発事業の同意協議において、環境配慮計画書の提出を求めた。提出件数：17件（まちづくり推進課）	A	

8-2 オゾン層の保護

- ・オゾン層を破壊するフロン類の適正な回収・処理を促進します。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
8-2-1 フロン類を適正回収する	オゾン層を破壊するフロン類の適正な回収・処理を促進する。	フロン回収業者に対し、フロン類が適正に回収・処理されるよう情報提供を行う。	環境政策課	継続	市民・事業者からフロン類の適正な回収についてチラシ等で情報提供を行った。	A

8-3 その他の地球環境保全

- ・市報等を通じ、市民や事業者が地球環境に負荷を与える行動を見直すための情報提供を行います。
- ・多摩産木材の利用を推進します。
- ・小金井市における環境保全の取組の推進・活性化に向けて、国際的な取組の動向に関する情報収集に努めます。

環境基本計画体系	取組項目	具体的内容	課名	H30年度実施計画	H30年度実績（具体的な数値・実施内容等）	評価
8-3-1 地球環境に負荷を与える行動を見直す	市報等を通じ、市民や事業者が地球環境に負荷を与える行動を見直すための情報提供を行う。	環境行動指針を提供し、地球環境破壊につながる行動の見直しを啓発する。	環境政策課	継続	環境フォーラム等のイベント時に希望する市民へ配布した。また、ホームページからのダウンロードによる提供も行っている。	A
8-3-2 森林資源を保護する	多摩産木材の利用を推進する。	公共施設の増改築において、積極的に多摩産木材を採用する。	関係各課	継続	公共施設の増改築がなかった。	C
8-3-3 環境問題を通じた国際交流に積極的に参加する	小金井市における環境保全の取組の推進・活性化に向けて、国際的な取組の動向に関する情報収集に努める。	国際交流を進めている地元大学と連携して、小金井市の環境や保全活動の情報を発信する。	環境政策課	継続	国際交流を進めている大学と連携して環境啓発事業を行った。	A